

大学番号：075

注3

[平成31年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前伺い

佐賀大学大学院 理工学研究科 理工学専攻

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人佐賀大学

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部企画評価課

職名・氏名 副課長 エサキ ヒロシ
江崎 浩

電話番号 0952-28-8812

（夜間） 0952-28-8812

F A X 0952-28-8118

e-mail kihyo@mail.admin.saga-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

理工学研究科

＜理工学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	45
4. 既設大学等の状況	46
5. 教員組織の状況	48
6. 附帯事項等に対する履行状況等	68
7. その他全般的事項	69

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人 佐賀大学

(2) 大 学 名

佐 賀 大 学

(3) 調査対象大学等の位置

〒840-8502
佐賀県佐賀市本庄町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(ミヤザキ コウジ) 宮崎 耕治 (平成27年10月)		
研究科長	(ワタリ タカノリ) 渡 孝則 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
理工学研究科 理工学専攻 (修士課程) 修士(理学) 修士(工学)	理学関係 工学関係	2年	167人	年次 人	334人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	167人 (-) [若干人]	人	人	人	人	人	人	人	人	人	0.94倍	—	
志願者数	175 (-) [12]	(-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	173 (-) [11]	(-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	166 (-) [11]	(-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	158 (-) [8]	(-) [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	0.94												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度										備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	158 [8] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4 年次							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	158 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合 計		0 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
 （記入項目例）・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(５) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{158} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<理工学研究科理工学専攻>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	ー	3	4		3	3				5
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシッ プS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシッ プL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(22科目)	ー	6	21		33	38	5			60
	代数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	幾何学特論Ⅰ	1前		2		1					
	解析学特論Ⅰ	1前		2		1					
	応用数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	代数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅱ	1後		2				1			
	解析学特論Ⅱ	1後		2				1			
	応用数学特論Ⅱ	1後		2		1					
	代数学特論Ⅲ	1前		2		1					
	幾何学特論Ⅲ	1前		2				1			
	解析学特論Ⅲ	1前		2				1			
	数理科学特論Ⅰ	1前		2			1				
	代数学特論Ⅳ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅳ	1後		2			1				
	数理科学特論Ⅱ	1後		2		1					
	数学特別研究Ⅰ	1前		8		4	3	2			
	数学特別研究Ⅱ	1後		8		4	3	2			
	数学特別研究Ⅲ	2前		8		4	3	2			
	数学特別研究Ⅳ	2後		10		4	3	2			
	量子力学	1前		2		1					
	統計力学	1前		2		1					
	数理物理学特論	1前		2		1					
	素粒子物理学	1後		2		1					
	宇宙物理学特論	1後		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅰ	1前		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅱ	1後		2		1					

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1					1			
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	ー	3	4		4	4	1			20
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			16
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシッ プS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシッ プL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(22科目)	ー	6	21		32	38	5			64
	代数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	幾何学特論Ⅰ	1前		2							1
	解析学特論Ⅰ	1前		2		1					
	応用数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	代数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅱ	1後		2				1			
	解析学特論Ⅱ	1後		2				1			
	応用数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	代数学特論Ⅲ	1前		2			1				
	幾何学特論Ⅲ	1前		2				1			
	解析学特論Ⅲ	1前		2				1			
	数理科学特論Ⅰ	1後		2			1				
	代数学特論Ⅳ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅳ	1後		2			1				
	数理科学特論Ⅱ	1後		2		1					
	数学特別研究Ⅰ	1前		8		3	3	2			
	数学特別研究Ⅱ	1後		8		3	3	2			
	数学特別研究Ⅲ	2前		8		3	3	2			
	数学特別研究Ⅳ	2後		10		3	3	2			
	量子力学	1前		2		1					
	統計力学	1前		2		1					
	数理物理学特論	1前		2		1					
	素粒子物理学	1後		2		1					
	宇宙物理学特論	1後		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅰ	1前		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅱ	1後		2		1					

	量子力学特論Ⅰ	1前	2		1						量子力学特論Ⅰ	1前	2		1					
	量子力学特論Ⅱ	1後	2	1							量子力学特論Ⅱ	1後	2	1						
	固体物理学特論	1前	2		1						固体物理学特論	1前	2		1					
	物性物理学特論	1後	2		1						物性物理学特論	1後	2		1					
	凝縮系物理学特論	1前	2		1						凝縮系物理学特論	1前	2		1					
	低温物理学特論	1後	2		1						低温物理学特論	1後	2		1					
	超伝導体物理学特論	1後	2	1							超伝導体物理学特論	1後	2	1						
	量子光学	1後	2	1							量子光学	1後	2		1					
	シンクロトン光応用物理学特論	1前	2		1						シンクロトン光応用物理学特論	1前	2		1					
	物理学特別研究Ⅰ	1前	6	6	8						物理学特別研究Ⅰ	1前	6	5	8					
	物理学特別研究Ⅱ	1後	6	6	8						物理学特別研究Ⅱ	1後	6	5	8					
	物理学特別研究Ⅲ	2前	12	6	8						物理学特別研究Ⅲ	2前	12	5	8					
	物理学特別研究Ⅳ	2後	12	6	8						物理学特別研究Ⅳ	2後	12	5	8					
	人工知能特論	1前	2	1							人工知能特論	1前	2	1						
	機械学習システム特論	1後	2		1						機械学習システム特論	1後	2		1					
	学習アルゴリズム特論	1後	2		1						学習アルゴリズム特論	1後	2		1					
	サイバーフィジカルシステム開発PBL	1後	2	1							サイバーフィジカルシステム開発PBL	1後	2	1						
	実世界センシング特論	1前	2	1							実世界センシング特論	1前	2	1						
	実世界モデリング特論	1前	2	1							実世界モデリング特論	1前	2	1						
	情報可視化特論	1後	2	1							情報可視化特論	1後	2	1						
	データサイエンス数理特論	1前	2	1							データサイエンス数理特論	1前	2	1						
	情報数理構造特論	1後	2		1						情報数理構造特論	1後	2		1					
	数理解析特論	1後	2		1						数理解析特論	1後	2		1					
	計算科学特論	1後	2		1						計算科学特論	1後	2		1					
	要求工学特論	1後	2		1						要求工学特論	1後	2		1					
	ソフトウェア設計特論	1前	2			1					ソフトウェア設計特論	1前	2			1				
	ITイノベーション特論	1後	2		1						ITイノベーション特論	1後	2		1					
	情報システムセキュリティ特論	1後	2	1	1						情報システムセキュリティ特論	1後	2	1	1					
	ソフトウェア品質保証特論	2前	2			1					ソフトウェア品質保証特論	2前	2			1				
	データサイエンスインターンシップA	1前・後	2	1							データサイエンスインターンシップA	1前・後	2	1						
	データサイエンスインターンシップB	1前・後	2	1							データサイエンスインターンシップB	1前・後	2	1						
	データサイエンス特別研究Ⅰ	1前	5	2	3						データサイエンス特別研究Ⅰ	1前	5	2	3					
	データサイエンス特別研究Ⅱ	1後	5	2	3						データサイエンス特別研究Ⅱ	1後	5	2	3					
	データサイエンス特別研究Ⅲ	2前	10	2	3						データサイエンス特別研究Ⅲ	2前	10	2	3					
	データサイエンス特別研究Ⅳ	2後	10	2	3						データサイエンス特別研究Ⅳ	2後	10	2	3					
	オペレーティングシステム特論	1前	2	1							オペレーティングシステム特論	1前	2	1						
	ネットワーク指向システム特論	1後	2		1						ネットワーク指向システム特論	1後	2		1					
	情報ネットワーク特論	1前	2	1							情報ネットワーク特論	1前	2	1						
	情報基盤システム学特論	1後	2	1							情報基盤システム学特論	1後	2	1						
	ユビキタス情報環境特論	1後	2		1						ユビキタス情報環境特論	1後	2		1					
	並列分散アルゴリズム特論	1後	2	1							並列分散アルゴリズム特論	1後	2	1						
	モデル化とシミュレーション特論	1前	2	1							モデル化とシミュレーション特論	1前	2	1						
	オブジェクト指向プログラミング特論	1前	2	1							オブジェクト指向プログラミング特論	1前	2	1						
	高性能計算特論	1前	2	1							高性能計算特論	1前	2	1						
	知能情報工学特別研究Ⅰ	1前	5	9	7	1					知能情報工学特別研究Ⅰ	1前	5	9	7	1				
	知能情報工学特別研究Ⅱ	1後	5	9	7	1					知能情報工学特別研究Ⅱ	1後	5	9	7	1				
	知能情報工学特別研究Ⅲ	2前	10	9	7	1					知能情報工学特別研究Ⅲ	2前	10	9	7	1				
	知能情報工学特別研究Ⅳ	2後	10	9	7	1					知能情報工学特別研究Ⅳ	2後	10	9	7	1				
	機能材料化学基礎特論	1前	2	7	7						機能材料化学基礎特論	1前	2	7	7					
	機能材料化学特論	1後	2	7	7						機能材料化学特論	1後	2	7	7					
	機能材料化学応用特論	2前	2	7	7						機能材料化学応用特論	2前	2	7	7					
	錯体材料化学特論	1後	2	1							錯体材料化学特論	1後	2	1						
	無機材料化学特論	1前	2	1							無機材料化学特論	1前	2	1						
	セラミックス化学特論	1後	2		1						セラミックス化学特論	1後	2		1					
	電極機能材料化学特論	1前	2	1							電極機能材料化学特論	1前	2	1						
	反応有機化学特論	1前	2	1							反応有機化学特論	1前	2	1						
	物性有機化学特論	1後	2	1							物性有機化学特論	1後	2	1						
	高分子物理化学特論	1後	2	1							高分子物理化学特論	1後	2	1						
	光電子機能材料化学特論	1後	2		1						光電子機能材料化学特論	1後	2		1					
	物性物理化学特論	1前	2		1						物性物理化学特論	1前	2		1					
	材料物性化学特論	1前	2		1						材料物性化学特論	1前	2		1					
	分離工学特論	1前	2	1							分離工学特論	1前	2	1						
	物質移動特論	1後	2		1						物質移動特論	1後	2		1					
	界面化学工学特論	1前	2		1						界面化学工学特論	1前	2		1					
	地球環境化学特論	1後	2		1						地球環境化学特論	1後	2		1					
	機能材料化学技術者教育特論	2前	2		1						機能材料化学技術者教育特論	2前	2		1					
	機能材料化学国際先進研究特論	2後	2		1						機能材料化学国際先進研究特論	2後	2		1					
	構造材料技術特論	2前	2				1				構造材料技術特論	2前	2					1		
	機能材料技術特論	1前	2				1				機能材料技術特論	1前	2					1		
	ナノ物質技術特論	2後	2				1				ナノ物質技術特論	2後	2					1		

水環境情報学特論	1前	2	1						
環境輸送特論	1前	2	1						
水処理工学特論	1後	2		1					
低平地地圏環境学特論	1前	2	1						
低平地水圏環境学特論	1前	2	1						
低平地防災地盤工学特論	1後	2		1					
非線形構造解析学特論	1前	2	1						
建設材料学特論	1前	2	1						
地震工学特論	1後	2	1						
都市基盤工学特別研究Ⅰ	1前	5	9	11	1				
都市基盤工学特別研究Ⅱ	1後	5	9	11	1				
都市基盤工学特別研究Ⅲ	2前	10	9	11	1				
都市基盤工学特別研究Ⅳ	2後	10	9	11	1				
建築環境デザイン特別演習Ⅰ	1前	3	1						
建築環境デザイン特別演習Ⅱ	1後	3		1					
建築環境設計特別演習	1後	2	1	1					
建築特別インターンシップA	1前・後	2		1					
建築特別インターンシップB	1前・後	2		1					
地域デザイン特別演習	1後	2		2					
都市デザイン特論	1前	2	1						
建築デザイン論	1前	2		1					
建築環境工学特論	1前	2	1						
建築環境設計特論	1前	2		1					
建築都市空間論	1前	2		1					
住環境論	1後	2		1					
建築環境デザイン特別研究Ⅰ	1前	5	9	11	1				
建築環境デザイン特別研究Ⅱ	1後	5	9	11	1				
建築環境デザイン特別研究Ⅲ	2前	10	9	11	1				
建築環境デザイン特別研究Ⅳ	2後	10	9	11	1				
小計(197科目)	－		632		55	58	5		7
合計(226科目)	－	9	657		55	58	5		68

水環境情報学特論	1前	2	1						
環境輸送特論	1前	2	1						
水処理工学特論	1後	2		1					
低平地地圏環境学特論	1前	2	1						
低平地水圏環境学特論	1前	2	1						
低平地防災地盤工学特論	1後	2	1						
非線形構造解析学特論	1前	2	1						
建設材料学特論	1前	2	1						
地震工学特論	1後	2	1						
都市基盤工学特別研究Ⅰ	1前	5	9	8	2				
都市基盤工学特別研究Ⅱ	1後	5	9	8	2				
都市基盤工学特別研究Ⅲ	2前	10	9	8	2				
都市基盤工学特別研究Ⅳ	2後	10	9	8	2				
建築環境デザイン特別演習Ⅰ	1前	3	1						
建築環境デザイン特別演習Ⅱ	1後	3		1					
建築環境設計特別演習	1後	2	1	1					
建築特別インターンシップA	1前・後	2		1					
建築特別インターンシップB	1前・後	2		1					
地域デザイン特別演習	1後	2		2					
都市デザイン特論	1前	2	1						
建築デザイン論	1前	2		1					
建築環境工学特論	1前	2	1						
建築環境設計特論	1前	2		1					
建築都市空間論	1前	2		1					
住環境論	1後	2		1					
建築環境デザイン特別研究Ⅰ	1前	5	9	8	2				
建築環境デザイン特別研究Ⅱ	1後	5	9	8	2				
建築環境デザイン特別研究Ⅲ	2前	10	9	8	2				
建築環境デザイン特別研究Ⅳ	2後	10	9	8	2				
小計(197科目)	－		632		52	54	6		8
合計(226科目)	－	9	657		52	54	6		85

卒業要件及び履修方法
大学院理工学研究科に2年以上在学し，大学院教養教育プログラム，自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして，修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は，以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は，以下の通りである。 他研究科の専門科目，自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合，10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜数学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から数学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 代数学特論Ⅰ、幾何学特論Ⅰ、解析学特論Ⅰ、数学特別研究Ⅰ、数学特別研究Ⅱ、数学特別研究Ⅲ、数学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 応用数学特論Ⅰ，代数学特論Ⅱ，幾何学特論Ⅱ，解析学特論Ⅱ，応用数学特論Ⅱ，代数学特論Ⅲ，幾何学特論Ⅲ，解析学特論Ⅲ，数理科学特論Ⅰ，代数学特論Ⅳ，幾何学特論Ⅳ，数理科学特論Ⅱ ○学位は修士（理学） ＜物理学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から物理学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 量子力学、統計力学、物理学特別研究Ⅰ、物理学特別研究Ⅱ、物理学特別研究Ⅲ、物理学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 数理解物理学特論，素粒子物理学，宇宙物理学特論，高エネルギー物理学Ⅰ，高エネルギー物理学Ⅱ，量子力学特論Ⅰ，量子力学特論Ⅱ，固体物理学特論，物性物理学特論，凝縮系物理学特論，低温物理学特論，超伝導体物理学特論，量子光学，シンクロトン光応用物理学特論 ○学位は修士（理学） ＜データサイエンスコース＞ ○専門科目の必修科目32単位。 データサイエンス数理特論、データサイエンス特別研究Ⅰ、データサイエンス特別研究Ⅱ、データサイエンス特別研究Ⅲ、データサイエンス特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論，機械学習システム特論，学習アルゴリズム特論，サイバーフィジカルシステム開発PBL，実世界センシング特論，実世界モデリング特論，情報可視化特論，情報数理構造特論，数理解析特論，計算科学特論，応用数学特論Ⅰ，応用数学特論Ⅱ，数理科学特論Ⅰ，数理科学特論Ⅱ，要求工学特論，ソフトウェア設計特論，ITイノベーション特論，情報システムセキュリティ特論，ソフトウェア品質保証特論，データサイエンスインターンシップA，データサイエンスインターンシップB ○学位に付記する専攻分野の名称については，特別研究（Ⅰ-Ⅳ）の研究内容及び履修科目を総合して判定する。それぞれの学位においては，以下の科目群から4単位以上を修得していること。 修士（理学）：応用数学特論Ⅰ，Ⅱ，数理科学特論Ⅰ，Ⅱ，情報数理構造特論，数値解析特論，計算科学特論 修士（工学）：人工知能特論，機械学習システム特論，学習アルゴリズム特論，サイバーフィジカルシステム開発PBL，実世界センシング特論，実世界モデリング特論，情報可視化特論，要求工学特論，ソフトウェア設計特論，ITイノベーション特論，情報システムセキュリティ特論，ソフトウェア品質保証特論 ＜知能情報工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から知能情報工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 情報システムセキュリティ特論、知能情報工学特別研究Ⅰ、知能情報工学特別研究Ⅱ、知能情報工学特別研究Ⅲ、知能情報工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論，機械学習システム特論，学習アルゴリズム特論，サイバーフィジカルシステム開発PBL，実世界センシング特論，実世界モデリング特論，情報可視化特論，データサイエンス数理特論，情報数理構造特論，数理解析特論，計算科学特論，要求工学特論，ソフトウェア設計特論，ITイノベーション特論，ソフトウェア品質保証特論，オペレーティングシステム特論，ネットワーク指向システム特論，情報ネットワーク特論，情報基盤システム学特論，ユビキタス情報環境特論，並列分散アルゴリズム特論，モデル化とシミュレーション特論，オブジェクト指向プログラミング特論，高性能計算特論 ○学位は修士（工学） ＜機能材料化学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から材料化学特論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 機能材料化学特別研究Ⅰ、機能材料化学特別研究Ⅱ、機能材料化学特別研究Ⅲ、機能材料化学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 機能材料化学基礎特論，機能材料化学特論，機能材料化学応用特論，錯体材料化学特論，無機材料化学特論，セラミックス化学特論，電極機能材料化学特論，反応有機化学特論，物性有機化学特論，高分子物理化学特論，光電子機能材料化学特論，物性物理化学特論，材料物性化学特論，分離工学特論，物質移動特論，界面化学工学特論，地球環境化学特論，機能材料化学技術者教育特論，機能材料化学国際先進研究特論，構造材料技術特論，機能材料技術特論，ナノ物質技術特論 ○学位は修士（工学） ＜機械エネルギー工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ、機械エネルギー工学特別研究Ⅱ、機械エネルギー工学特別研究Ⅲ、機械エネルギー工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論，熱力学特論，材料力学特論，機械力学特論，機械システム工学PBL，計測制御特論，熱エネルギー工学特論，熱輸送工学特論，熱物質移動工学特論，流体エネルギー特論，流動システム工学特論，海洋工学特論，海洋システム設計特論，エネルギー機関特論，エネルギー変換特論，流体エネルギー力学特論，海洋環境特論 ○学位は修士（工学） ＜機械システム工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械システム工学特別研究Ⅰ、機械システム工学特別研究Ⅱ、機械システム工学特別研究Ⅲ、機械システム工学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論，熱力学特論，材料力学特論，機械力学特論，機械システム工学PBL，計測制御特論，熱エネルギー工学特論，機械材料学特論，精密機器工学特論，潤滑工学特論，ロボット工学特論，応用力学特論，生産加工工学特論，表面工学特論，固体力学特論，材料強度学特論，計算力学特論 ○学位は修士（工学）

卒業要件及び履修方法
大学院理工学研究科に2年以上在学し，大学院教養教育プログラム，自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして，修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は，以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は，以下の通りである。 他研究科の専門科目，自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合，10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜数学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から数学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 代数学特論Ⅰ、幾何学特論Ⅰ、解析学特論Ⅰ、数学特別研究Ⅰ、数学特別研究Ⅱ、数学特別研究Ⅲ、数学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 応用数学特論Ⅰ，代数学特論Ⅱ，幾何学特論Ⅱ，解析学特論Ⅱ，応用数学特論Ⅱ，代数学特論Ⅲ，幾何学特論Ⅲ，解析学特論Ⅲ，数理科学特論Ⅰ，代数学特論Ⅳ，幾何学特論Ⅳ，数理科学特論Ⅱ ○学位は修士（理学） ＜物理学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から物理学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 量子力学、統計力学、物理学特別研究Ⅰ、物理学特別研究Ⅱ、物理学特別研究Ⅲ、物理学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 数理解物理学特論，素粒子物理学，宇宙物理学特論，高エネルギー物理学Ⅰ，高エネルギー物理学Ⅱ，量子力学特論Ⅰ，量子力学特論Ⅱ，固体物理学特論，物性物理学特論，凝縮系物理学特論，低温物理学特論，超伝導体物理学特論，量子光学，シンクロトン光応用物理学特論 ○学位は修士（理学） ＜データサイエンスコース＞ ○専門科目の必修科目32単位。 データサイエンス数理特論、データサイエンス特別研究Ⅰ、データサイエンス特別研究Ⅱ、データサイエンス特別研究Ⅲ、データサイエンス特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論，機械学習システム特論，学習アルゴリズム特論，サイバーフィジカルシステム開発PBL，実世界センシング特論，実世界モデリング特論，情報可視化特論，情報数理構造特論，数理解析特論，計算科学特論，応用数学特論Ⅰ，応用数学特論Ⅱ，数理科学特論Ⅰ，数理科学特論Ⅱ，要求工学特論，ソフトウェア設計特論，ITイノベーション特論，情報システムセキュリティ特論，ソフトウェア品質保証特論，データサイエンスインターンシップA，データサイエンスインターンシップB ○学位に付記する専攻分野の名称については，特別研究（Ⅰ-Ⅳ）の研究内容及び履修科目を総合して判定する。それぞれの学位においては，以下の科目群から4単位以上を修得していること。 修士（理学）：応用数学特論Ⅰ，Ⅱ，数理科学特論Ⅰ，Ⅱ，情報数理構造特論，数値解析特論，計算科学特論 修士（工学）：人工知能特論，機械学習システム特論，学習アルゴリズム特論，サイバーフィジカルシステム開発PBL，実世界センシング特論，実世界モデリング特論，情報可視化特論，要求工学特論，ソフトウェア設計特論，ITイノベーション特論，情報システムセキュリティ特論，ソフトウェア品質保証特論 ＜知能情報工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から知能情報工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 情報システムセキュリティ特論、知能情報工学特別研究Ⅰ、知能情報工学特別研究Ⅱ、知能情報工学特別研究Ⅲ、知能情報工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論，機械学習システム特論，学習アルゴリズム特論，サイバーフィジカルシステム開発PBL，実世界センシング特論，実世界モデリング特論，情報可視化特論，データサイエンス数理特論，情報数理構造特論，数理解析特論，計算科学特論，要求工学特論，ソフトウェア設計特論，ITイノベーション特論，ソフトウェア品質保証特論，オペレーティングシステム特論，ネットワーク指向システム特論，情報ネットワーク特論，情報基盤システム学特論，ユビキタス情報環境特論，並列分散アルゴリズム特論，モデル化とシミュレーション特論，オブジェクト指向プログラミング特論，高性能計算特論 ○学位は修士（工学） ＜機能材料化学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から材料化学特論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 機能材料化学特別研究Ⅰ、機能材料化学特別研究Ⅱ、機能材料化学特別研究Ⅲ、機能材料化学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 機能材料化学基礎特論，機能材料化学特論，機能材料化学応用特論，錯体材料化学特論，無機材料化学特論，セラミックス化学特論，電極機能材料化学特論，反応有機化学特論，物性有機化学特論，高分子物理化学特論，光電子機能材料化学特論，物性物理化学特論，材料物性化学特論，分離工学特論，物質移動特論，界面化学工学特論，地球環境化学特論，機能材料化学技術者教育特論，機能材料化学国際先進研究特論，構造材料技術特論，機能材料技術特論，ナノ物質技術特論 ○学位は修士（工学） ＜機械エネルギー工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ、機械エネルギー工学特別研究Ⅱ、機械エネルギー工学特別研究Ⅲ、機械エネルギー工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論，熱力学特論，材料力学特論，機械力学特論，機械システム工学PBL，計測制御特論，熱エネルギー工学特論，熱輸送工学特論，熱物質移動工学特論，流体エネルギー特論，流動システム工学特論，海洋工学特論，海洋システム設計特論，エネルギー機関特論，エネルギー変換特論，流体エネルギー力学特論，海洋環境特論 ○学位は修士（工学） ＜機械システム工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械システム工学特別研究Ⅰ、機械システム工学特別研究Ⅱ、機械システム工学特別研究Ⅲ、機械システム工学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論，熱力学特論，材料力学特論，機械力学特論，機械システム工学PBL，計測制御特論，熱エネルギー工学特論，機械材料学特論，精密機器工学特論，潤滑工学特論，ロボット工学特論，応用力学特論，生産加工工学特論，表面工学特論，固体力学特論，材料強度学特論，計算力学特論 ○学位は修士（工学）

<電気電子工学コース> ○自然科学系研究科共通科目から電気電子工学概論を除く。 ○専門科目の必修科目36単位。 電気電子工学特論、電気電子工学特別研究Ⅰ、電気電子工学特別研究Ⅱ、電気電子工学特別研究Ⅲ、電気電子工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から12単位以上。 物質情報エレクトロニクス特論、光子エレクトロニクス特論、集積回路プロセス工学特論、電子情報システム設計特論、システムLSI回路設計特論、ワイヤレス通信システム特論、マイクロ波集積回路特論、シンクロトン光利用科学技術工学特論、計算論的知能工学特論、グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論、適応システム特論、プロセスプラズマ工学特論、パルスパワー工学特論、電力システム工学特論、高周波回路設計特論、データ解析工学特論、新・省エネルギー工学特論、電気電子実務者教育特論 ○学位は修士（工学） <都市基盤工学コース> ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 水環境システム工学特論、土質力学特論、応用流体力学特論、構造工学特論、都市基盤工学特別研究Ⅰ、都市基盤工学特別研究Ⅱ、都市基盤工学特別研究Ⅲ、都市基盤工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、国際都市・環境特別演習、環境地盤工学特論、地盤工学特論、水工学特論、水環境情報学特論、環境輸送特論、水処理工学特論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学） <建築環境デザインコース> ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 建築環境デザイン特別演習Ⅰ、建築環境デザイン特別演習Ⅱ、建築環境設計特別演習、建築環境デザイン特別研究Ⅰ、建築環境デザイン特別研究Ⅱ、建築環境デザイン特別研究Ⅲ、建築環境デザイン特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、建築特別インターンシップA、建築特別インターンシップB、国際都市・環境特別演習、地域デザイン特別演習、都市デザイン特論、建築デザイン論、建築環境工学特論、建築環境設計特論、建築都市空間論、住環境論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、構造工学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学）	<電気電子工学コース> ○自然科学系研究科共通科目から電気電子工学概論を除く。 ○専門科目の必修科目36単位。 電気電子工学特論、電気電子工学特別研究Ⅰ、電気電子工学特別研究Ⅱ、電気電子工学特別研究Ⅲ、電気電子工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から12単位以上。 物質情報エレクトロニクス特論、光子エレクトロニクス特論、集積回路プロセス工学特論、電子情報システム設計特論、システムLSI回路設計特論、ワイヤレス通信システム特論、マイクロ波集積回路特論、シンクロトン光利用科学技術工学特論、計算論的知能工学特論、グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論、適応システム特論、プロセスプラズマ工学特論、パルスパワー工学特論、電力システム工学特論、高周波回路設計特論、データ解析工学特論、新・省エネルギー工学特論、電気電子実務者教育特論 ○学位は修士（工学） <都市基盤工学コース> ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 水環境システム工学特論、土質力学特論、応用流体力学特論、構造工学特論、都市基盤工学特別研究Ⅰ、都市基盤工学特別研究Ⅱ、都市基盤工学特別研究Ⅲ、都市基盤工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、国際都市・環境特別演習、環境地盤工学特論、地盤工学特論、水工学特論、水環境情報学特論、環境輸送特論、水処理工学特論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学） <建築環境デザインコース> ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 建築環境デザイン特別演習Ⅰ、建築環境デザイン特別演習Ⅱ、建築環境設計特別演習、建築環境デザイン特別研究Ⅰ、建築環境デザイン特別研究Ⅱ、建築環境デザイン特別研究Ⅲ、建築環境デザイン特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、建築特別インターンシップA、建築特別インターンシップB、国際都市・環境特別演習、地域デザイン特別演習、都市デザイン特論、建築デザイン論、建築環境工学特論、建築環境設計特論、建築都市空間論、住環境論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、構造工学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学）
--	--

- （注） ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても**科目名の後ろに「（未開講）」として記入**してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入**してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。（**2つの表が1ページに表示されるように**してください。）

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授０」に、及び「講師０」から「講師１」に変更。
- ・科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授３」に、「准教授０」から「准教授３」に、及び「兼０」から「兼８」に変更。
- ・学内調整による配当年次の見直しにより、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。
- ・科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼１」から「兼８」に変更。
- ・担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授１４」から「教授１３」に変更。
- ・担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授１９」から「教授１８」に変更。
- ・学内調整による担当教員の見直しにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「兼１５」から「兼１６」に変更する。
- ・完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授２２」から「准教授２１」に、及び「講師３」から「講師４」に変更。
- ・学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼４」から「兼９」に変更する。
- ・科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授０」から「准教授１」に変更。
- ・担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼６」から「兼５」に変更。
- ・担当教員異動により、「幾何学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授０」に、及び担当教員を「兼０」から「兼１」に変更。
- ・教員転出による学期調整により、「数理科学特論Ⅰ」の配当年次を「１前」から「１後」に変更。
- ・担当教員異動により、「数学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授４」から「教授３」に変更。
- ・担当教員異動により、「数学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授４」から「教授３」に変更。
- ・担当教員異動により、「数学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授４」から「教授３」に変更。
- ・担当教員異動により、「数学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授４」から「教授３」に変更。
- ・担当教員逝去により、「量子光学」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授０」に、及び「准教授０」から「准教授１」に変更。
- ・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授６」から「教授５」に変更。
- ・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授６」から「教授５」に変更。
- ・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授６」から「教授５」に変更。
- ・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授６」から「教授５」に変更。
- ・完成年度で申請を行ったことにより、「海洋工学特論」の専任教員等の配置を「教授０」から「教授１」に、及び担当教員を「准教授１」から「准教授０」に変更。
- ・担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授１０」に変更。
- ・担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授１０」に変更。
- ・担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授１０」に変更。
- ・担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授１０」に変更。
- ・担当教員異動により、「地盤工学特論」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授０」に、及び「講師０」から「講師１」に変更。
- ・担当教員異動により、「低平地防災地盤工学特論」の専任教員等の配置を「准教授１」から「准教授０」に、及び「教授０」から「教授１」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。
- ・担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「准教授１１」から「准教授８」に、及び「講師１」から「講師２」に変更。

- (注)・ 2(1)ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
6 科目	220 科目	0 科目	226 科目	6 科目 [0]	220 科目 [0]	0 科目 [0]	226 科目 [0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年度に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{226} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 数学コース＞

（1）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1				1				
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		33	38	4			63
専門科目	代数学特論Ⅰ	1前	2			1					
	幾何学特論Ⅰ	1前	2			1					
	解析学特論Ⅰ	1前	2			1					
	応用数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	代数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅱ	1後		2				1			
	解析学特論Ⅱ	1後		2				1			
	応用数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	代数学特論Ⅲ	1前		2			1				
	幾何学特論Ⅲ	1前		2				1			
	解析学特論Ⅲ	1前		2				1			
	数理科学特論Ⅰ	1前		2			1				
	代数学特論Ⅳ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅳ	1後		2			1				
	数理科学特論Ⅱ	1後		2		1					
	数学特別研究Ⅰ	1前	8			4	3	2			
	数学特別研究Ⅱ	1後	8			4	3	2			
	数学特別研究Ⅲ	2前	8			4	3	2			
	数学特別研究Ⅳ	2後	10			4	3	2			
	小計(19科目)	－	40	24		4	3	2			
	合計(47科目)	－	49	48		36	40	4			68
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜数学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から数学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 代数学特論Ⅰ、幾何学特論Ⅰ、解析学特論Ⅰ、数学特別研究Ⅰ、数学特別研究Ⅱ、数学特別研究Ⅲ、数学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 応用数学特論Ⅰ、代数学特論Ⅱ、幾何学特論Ⅱ、解析学特論Ⅱ、応用数学特論Ⅱ、代数学特論Ⅲ、幾何学特論Ⅲ、解析学特論Ⅲ、数理科学特論Ⅰ、代数学特論Ⅳ、幾何学特論Ⅳ、数理科学特論Ⅱ ○学位は修士（理学）											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1						1		
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			16
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		32	38	5			64
専門科目	代数学特論Ⅰ	1前	2			1					
	幾何学特論Ⅰ	1前	2								1
	解析学特論Ⅰ	1前	2			1					
	応用数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	代数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅱ	1後		2				1			
	解析学特論Ⅱ	1後		2				1			
	応用数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	代数学特論Ⅲ	1前		2			1				
	幾何学特論Ⅲ	1前		2				1			
	解析学特論Ⅲ	1前		2				1			
	数理科学特論Ⅰ	1後		2			1				
	代数学特論Ⅳ	1後		2			1				
	幾何学特論Ⅳ	1後		2			1				
	数理科学特論Ⅱ	1後		2		1					
	数学特別研究Ⅰ	1前	8			3	3	2			
	数学特別研究Ⅱ	1後	8			3	3	2			
	数学特別研究Ⅲ	2前	8			3	3	2			
	数学特別研究Ⅳ	2後	10			3	3	2			
	小計(19科目)	－	40	24		3	3	2			1
	合計(47科目)	－	49	48		35	40	5			82
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜数学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から数学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 代数学特論Ⅰ、幾何学特論Ⅰ、解析学特論Ⅰ、数学特別研究Ⅰ、数学特別研究Ⅱ、数学特別研究Ⅲ、数学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 応用数学特論Ⅰ、代数学特論Ⅱ、幾何学特論Ⅱ、解析学特論Ⅱ、応用数学特論Ⅱ、代数学特論Ⅲ、幾何学特論Ⅲ、解析学特論Ⅲ、数理科学特論Ⅰ、代数学特論Ⅳ、幾何学特論Ⅳ、数理科学特論Ⅱ ○学位は修士（理学）											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
- ・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
- ・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
- ・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「幾何学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、及び担当教員を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・ 教員転出による学期調整により、「数理科学特論Ⅰ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「数学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「数学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「数学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「数学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	34 科目	0 科目	47 科目	13 科目 [0]	34 科目 [0]	0 科目 [0]	47 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{47} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 物理学コース＞

（１）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシ ップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		32	38	4			63
専 門 科 目	量子力学	1前	2			1					
	統計力学	1前	2			1					
	数理物理学特論	1前		2		1					
	素粒子物理学	1後		2		1					
	宇宙物理学特論	1後		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅰ	1前		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅱ	1後		2		1					
	量子力学特論Ⅰ	1前		2			1				
	量子力学特論Ⅱ	1後		2		1					
	固体物理学特論	1前		2			1				
	物性物理学特論	1後		2			1				
	凝縮系物理学特論	1前		2			1				
	低温物理学特論	1後		2			1				
	超伝導体物理学特論	1後		2		1					
	量子光学	1後		2		1					
	シンクロトロン光応用物理学特論	1前		2			1				
	物理学特別研究Ⅰ	1前	6			6	8				
	物理学特別研究Ⅱ	1後	6			6	8				
	物理学特別研究Ⅲ	2前	12			6	8				
	物理学特別研究Ⅳ	2後	12			6	8				
	小計(20科目)	－	40	28		6	8				
合計(48科目)			－	49	52		39	43	4		68
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜物理学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から物理学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 量子力学、統計力学、物理学特別研究Ⅰ、物理学特別研究Ⅱ、物理学特別研究Ⅲ、物理学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 数理物理学特論、素粒子物理学、宇宙物理学特論、高エネルギー物理学Ⅰ、高エネルギー物理学Ⅱ、量子力学特論Ⅰ、量子力学特論Ⅱ、固体物理学特論、物性物理学特論、凝縮系物理学特論、低温物理学特論、超伝導体物理学特論、量子光学、シンクロトロン光応用物理学特論 ○学位は修士（理学）											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1						1		
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシ ップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		31	38	5			64
専 門 科 目	量子力学	1前	2			1					
	統計力学	1前	2			1					
	数理物理学特論	1前		2		1					
	素粒子物理学	1後		2		1					
	宇宙物理学特論	1後		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅰ	1前		2			1				
	高エネルギー物理学Ⅱ	1後		2		1					
	量子力学特論Ⅰ	1前		2			1				
	量子力学特論Ⅱ	1後		2		1					
	固体物理学特論	1前		2			1				
	物性物理学特論	1後		2			1				
	凝縮系物理学特論	1前		2			1				
	低温物理学特論	1後		2			1				
	超伝導体物理学特論	1後		2		1					
	量子光学	1後		2			1				
	シンクロトロン光応用物理学特論	1前		2			1				
	物理学特別研究Ⅰ	1前	6			5	8				
	物理学特別研究Ⅱ	1後	6			5	8				
	物理学特別研究Ⅲ	2前	12			5	8				
	物理学特別研究Ⅳ	2後	12			5	8				
	小計(20科目)	－	40	28		5	8				
合計(48科目)			－	49	52		37	43	5		81
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜物理学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から物理学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目40単位。 量子力学、統計力学、物理学特別研究Ⅰ、物理学特別研究Ⅱ、物理学特別研究Ⅲ、物理学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から8単位以上。 数理物理学特論、素粒子物理学、宇宙物理学特論、高エネルギー物理学Ⅰ、高エネルギー物理学Ⅱ、量子力学特論Ⅰ、量子力学特論Ⅱ、固体物理学特論、物性物理学特論、凝縮系物理学特論、低温物理学特論、超伝導体物理学特論、量子光学、シンクロトロン光応用物理学特論 ○学位は修士（理学）											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

・完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。

・科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。

・学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

・科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。

・担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。

・担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。

・完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。

・学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。

・科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。

・担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。

・担当教員逝去により、「量子光学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、及び「准教授0」から「准教授1」に変更。

・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。

・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。

・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。

・担当教員逝去により、「物理学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。

- (注) ・ 2(1)ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
12 科目	36 科目	0 科目	48 科目	12 科目 [0]	36 科目 [0]	0 科目 [0]	48 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{48} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 データサイエンスコース＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターシッps	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターシッpL	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(22科目)	－	6	21		33	38	5			63
専門科目	人工知能特論	1前		2		1					
	機械学習システム特論	1後		2			1				
	学習アルゴリズム特論	1後		2			1				
	サイバーフィジカルシステム開発PBL	1後		2		1					
	実世界センシング特論	1前		2		1					
	実世界モデリング特論	1前		2		1					
	情報可視化特論	1後		2		1					
	データサイエンス数理特論	1前	2			1					
	情報数理構造特論	1後		2			1				
	数理解析特論	1後		2			1				
	計算科学特論	1後		2			1				
	応用数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	応用数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	数理科学特論Ⅰ	1前		2			1				
	数理科学特論Ⅱ	1後		2		1					
	要求工学特論	1後		2			1				
	ソフトウェア設計特論	1前		2				1			
	ITイノベーション特論	1後		2			1				
	情報システムセキュリティ特論	1後		2		1	1				
	ソフトウェア品質保証特論	2前		2				1			
	データサイエンスインターシッpA	1前・後		2		1					
	データサイエンスインターシッpB	1前・後		2		1					
	データサイエンス特別研究Ⅰ	1前	5			2	3				
	データサイエンス特別研究Ⅱ	1後	5			2	3				
	データサイエンス特別研究Ⅲ	2前	10			2	3				
	データサイエンス特別研究Ⅳ	2後	10			2	3				
	小計(26科目)	－	32	42		6	8	1			
	合計(55科目)	－	41	67		36	43	7			68

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1					1			
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターシッps	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターシッpL	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(22科目)	－	6	21		32	38	5			64
専門科目	人工知能特論	1前		2		1					
	機械学習システム特論	1後		2			1				
	学習アルゴリズム特論	1後		2			1				
	サイバーフィジカルシステム開発PBL	1後		2		1					
	実世界センシング特論	1前		2		1					
	実世界モデリング特論	1前		2		1					
	情報可視化特論	1後		2		1					
	データサイエンス数理特論	1前	2			1					
	情報数理構造特論	1後		2			1				
	数理解析特論	1後		2			1				
	計算科学特論	1後		2			1				
	応用数学特論Ⅰ	1前		2		1					
	応用数学特論Ⅱ	1後		2			1				
	数理科学特論Ⅰ	1前		2			1				
	数理科学特論Ⅱ	1後		2		1					
	要求工学特論	1後		2			1				
	ソフトウェア設計特論	1前		2				1			
	ITイノベーション特論	1後		2			1				
	情報システムセキュリティ特論	1後		2		1	1				
	ソフトウェア品質保証特論	2前		2				1			
	データサイエンスインターシッpA	1前・後		2		1					
	データサイエンスインターシッpB	1前・後		2		1					
	データサイエンス特別研究Ⅰ	1前	5			2	3				
	データサイエンス特別研究Ⅱ	1後	5			2	3				
	データサイエンス特別研究Ⅲ	2前	10			2	3				
	データサイエンス特別研究Ⅳ	2後	10			2	3				
	小計(26科目)	－	32	42		6	7	1			
	合計(55科目)	－	41	67		35	42	5			81

卒業要件及び履修方法
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <データサイエンスコース> ○専門科目の必修科目32単位。 データサイエンス数理特論、データサイエンス特別研究Ⅰ、データサイエンス特別研究Ⅱ、データサイエンス特別研究Ⅲ、データサイエンス特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論、機械学習システム特論、学習アルゴリズム特論、サイバーフィジカルシステム開発PBL、実世界センシング特論、実世界モデリング特論、情報可視化特論、情報数理構造特論、数理解析特論、計算科学特論、応用数学特論Ⅰ、応用数学特論Ⅱ、数理科学特論Ⅰ、数理科学特論Ⅱ、要求工学特論、ソフトウェア設計特論、ITイノベーション特論、情報システムセキュリティ特論、ソフトウェア品質保証特論、データサイエンスインターンシップA、データサイエンスインターンシップB ○学位に付記する専攻分野の名称については、特別研究（I-IV）の研究内容及び履修科目を総合して判定する。それぞれの学位においては、以下の科目群から4単位以上を修得していること。 修士（理学）：応用数学特論Ⅰ、Ⅱ、数理科学特論Ⅰ、Ⅱ、情報数理構造特論、数値解析特論、計算科学特論 修士（工学）：人工知能特論、機械学習システム特論、学習アルゴリズム特論、サイバーフィジカルシステム開発PBL、実世界センシング特論、実世界モデリング特論、情報可視化特論、要求工学特論、ソフトウェア設計特論、ITイノベーション特論、情報システムセキュリティ特論、ソフトウェア品質保証特論

卒業要件及び履修方法
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <データサイエンスコース> ○専門科目の必修科目32単位。 データサイエンス数理特論、データサイエンス特別研究Ⅰ、データサイエンス特別研究Ⅱ、データサイエンス特別研究Ⅲ、データサイエンス特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論、機械学習システム特論、学習アルゴリズム特論、サイバーフィジカルシステム開発PBL、実世界センシング特論、実世界モデリング特論、情報可視化特論、情報数理構造特論、数理解析特論、計算科学特論、応用数学特論Ⅰ、応用数学特論Ⅱ、数理科学特論Ⅰ、数理科学特論Ⅱ、要求工学特論、ソフトウェア設計特論、ITイノベーション特論、情報システムセキュリティ特論、ソフトウェア品質保証特論、データサイエンスインターンシップA、データサイエンスインターンシップB ○学位に付記する専攻分野の名称については、特別研究（I-IV）の研究内容及び履修科目を総合して判定する。それぞれの学位においては、以下の科目群から4単位以上を修得していること。 修士（理学）：応用数学特論Ⅰ、Ⅱ、数理科学特論Ⅰ、Ⅱ、情報数理構造特論、数値解析特論、計算科学特論 修士（工学）：人工知能特論、機械学習システム特論、学習アルゴリズム特論、サイバーフィジカルシステム開発PBL、実世界センシング特論、実世界モデリング特論、情報可視化特論、要求工学特論、ソフトウェア設計特論、ITイノベーション特論、情報システムセキュリティ特論、ソフトウェア品質保証特論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。
（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）

(1)－②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
- ・科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
- ・学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
- ・担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
- ・完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
- ・学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
- ・科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。

- (注) ・ 2（1）－① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
11 科目	44 科目	0 科目	55 科目	11 科目 [0]	44 科目 [0]	0 科目 [0]	55 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{55} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 知能情報工学コース＞

（1）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1				1				
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		33	38	4			63
専門科目	人工知能特論	1前		2		1					
	機械学習システム特論	1後		2			1				
	学習アルゴリズム特論	1後		2			1				
	サイバーフィジカルシステム開発PBL	1後		2		1					
	実世界センシング特論	1前		2		1					
	実世界モデリング特論	1前		2		1					
	情報可視化特論	1後		2		1					
	データサイエンス数理特論	1前		2		1					
	情報数理構造特論	1後		2			1				
	数理解析特論	1後		2			1				
	計算科学特論	1後		2			1				
	要求工学特論	1後		2			1				
	ソフトウェア設計特論	1前		2				1			
	ITイノベーション特論	1後		2			1				
	ソフトウェア品質保証特論	1前		2				1			
	オペレーティングシステム特論	1前		2		1					
	ネットワーク指向システム特論	1後		2			1				
	情報ネットワーク特論	1前		2		1					
	情報基盤システム学特論	1後		2		1					
	ユビキタス情報環境特論	1後		2			1				
	並列分散アルゴリズム特論	1後		2		1					
	モデル化とシミュレーション特論	1前		2		1					
	オブジェクト指向プログラミング特論	1前		2		1					
	高性能計算特論	1前		2		1					
	情報システムセキュリティ特論	1後	2			1	1				
	知能情報工学特別研究Ⅰ	1前	5			9	7	1			
	知能情報工学特別研究Ⅱ	1後	5			9	7	1			
	知能情報工学特別研究Ⅲ	2前	10			9	7	1			
	知能情報工学特別研究Ⅳ	2後	10			9	7	1			
	小計(29科目)	－	32	48		9	7	1			
	合計(57科目)	－	41	72		38	43	4			68

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1					1			
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		32	37	5			64
専門科目	人工知能特論	1前		2		1					
	機械学習システム特論	1後		2			1				
	学習アルゴリズム特論	1後		2			1				
	サイバーフィジカルシステム開発PBL	1後		2		1					
	実世界センシング特論	1前		2		1					
	実世界モデリング特論	1前		2		1					
	情報可視化特論	1後		2		1					
	データサイエンス数理特論	1前		2		1					
	情報数理構造特論	1後		2			1				
	数理解析特論	1後		2			1				
	計算科学特論	1後		2			1				
	要求工学特論	1後		2			1				
	ソフトウェア設計特論	1前		2				1			
	ITイノベーション特論	1後		2			1				
	ソフトウェア品質保証特論	1前		2				1			
	オペレーティングシステム特論	1前		2		1					
	ネットワーク指向システム特論	1後		2			1				
	情報ネットワーク特論	1前		2		1					
	情報基盤システム学特論	1後		2		1					
	ユビキタス情報環境特論	1後		2			1				
	並列分散アルゴリズム特論	1後		2		1					
	モデル化とシミュレーション特論	1前		2		1					
	オブジェクト指向プログラミング特論	1前		2		1					
	高性能計算特論	1前		2		1					
	情報システムセキュリティ特論	1後	2			1	1				
	知能情報工学特別研究Ⅰ	1前	5			9	7	1			
	知能情報工学特別研究Ⅱ	1後	5			9	7	1			
	知能情報工学特別研究Ⅲ	2前	10			9	7	1			
	知能情報工学特別研究Ⅳ	2後	10			9	7	1			
	小計(29科目)	－	32	48		9	7	1			
	合計(57科目)	－	41	72		37	42	5			81

卒業要件及び履修方法	卒業要件及び履修方法
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <知能情報工学コース> ○ 自然科学系研究科共通科目から知能情報工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 情報システムセキュリティ特論、知能情報工学特別研究Ⅰ、知能情報工学特別研究Ⅱ、知能情報工学特別研究Ⅲ、知能情報工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論、機械学習システム特論、学習アルゴリズム特論、サイバーフィジカルシステム開発PBL、実世界センシング特論、実世界モデリング特論、情報可視化特論、データサイエンス数理特論、情報数理構造特論、数理解析特論、計算科学特論、要求工学特論、ソフトウェア設計特論、ITイノベーション特論、ソフトウェア品質保証特論、オペレーティングシステム特論、ネットワーク指向システム特論、情報ネットワーク特論、情報基盤システム学特論、ユビキタス情報環境特論、並列分散アルゴリズム特論、モデル化とシミュレーション特論、オブジェクト指向プログラミング特論、高性能計算特論 ○学位は修士（工学）	大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <知能情報工学コース> ○ 自然科学系研究科共通科目から知能情報工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 情報システムセキュリティ特論、知能情報工学特別研究Ⅰ、知能情報工学特別研究Ⅱ、知能情報工学特別研究Ⅲ、知能情報工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 人工知能特論、機械学習システム特論、学習アルゴリズム特論、サイバーフィジカルシステム開発PBL、実世界センシング特論、実世界モデリング特論、情報可視化特論、データサイエンス数理特論、情報数理構造特論、数理解析特論、計算科学特論、要求工学特論、ソフトウェア設計特論、ITイノベーション特論、ソフトウェア品質保証特論、オペレーティングシステム特論、ネットワーク指向システム特論、情報ネットワーク特論、情報基盤システム学特論、ユビキタス情報環境特論、並列分散アルゴリズム特論、モデル化とシミュレーション特論、オブジェクト指向プログラミング特論、高性能計算特論 ○学位は修士（工学）

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
- ・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
- ・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
- ・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。

- (注) ・ 2（1）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
11 科目	46 科目	0 科目	57 科目	11 科目 [0]	46 科目 [0]	0 科目 [0]	57 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{57} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 機能材料化学コース＞

（１）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院 院教養 教育 プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		33	38	4			63
専門科目	機能材料化学基礎特論	1前		2		7	7				
	機能材料化学特論	1後		2		7	7				
	機能材料化学応用特論	2前		2		7	7				
	錯体材料化学特論	1後		2		1					
	無機材料化学特論	1前		2		1					
	セラミックス化学特論	1後		2			1				
	電極機能材料化学特論	1前		2		1					
	反応有機化学特論	1前		2		1					
	物性有機化学特論	1後		2		1					
	高分子物理化学特論	1後		2		1					
	光電子機能材料化学特論	1後		2			1				
	物性物理化学特論	1前		2			1				
	材料物性化学特論	1前		2			1				
	分離工学特論	1前		2		1					
	物質移動特論	1後		2			1				
	界面化学工学特論	1前		2			1				
	地球環境化学特論	1後		2			1				
	機能材料化学技術者教育特論	2前		2			1				
	機能材料化学国際先進研究特論	2後		2			1				
	構造材料技術特論	2前		2							1
	機能材料技術特論	1前		2							1
	ナノ物質技術特論	2後		2							1
	機能材料化学特別研究Ⅰ	1前	8			7	7				
	機能材料化学特別研究Ⅱ	1後	8			7	7				
	機能材料化学特別研究Ⅲ	2前	8			7	7				
	機能材料化学特別研究Ⅳ	2後	8			7	7				
	小計(26科目)	－	32	44		7	7				3
合計(54科目)			－	41	68		38	42	4		71
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜機能材料化学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から材料化学特論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 機能材料化学特別研究Ⅰ、機能材料化学特別研究Ⅱ、機能材料化学特別研究Ⅲ、機能材料化学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 機能材料化学基礎特論、機能材料化学特論、機能材料化学応用特論、錯体材料化学特論、無機材料化学特論、セラミックス化学特論、電極機能材料化学特論、反応有機化学特論、物性有機化学特論、高分子物理化学特論、光電子機能材料化学特論、物性物理化学特論、材料物性化学特論、分離工学特論、物質移動特論、界面化学工学特論、地球環境化学特論、機能材料化学技術者教育特論、機能材料化学国際先進研究特論、構造材料技術特論、機能材料技術特論、ナノ物質技術特論 ○ 学位は修士（工学）											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院 院教養 教育 プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1						1		
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		32	38	5			64
専門科目	機能材料化学基礎特論	1前		2		7	7				
	機能材料化学特論	1後		2		7	7				
	機能材料化学応用特論	2前		2		7	7				
	錯体材料化学特論	1後		2		1					
	無機材料化学特論	1前		2		1					
	セラミックス化学特論	1後		2			1				
	電極機能材料化学特論	1前		2		1					
	反応有機化学特論	1前		2		1					
	物性有機化学特論	1後		2		1					
	高分子物理化学特論	1後		2		1					
	光電子機能材料化学特論	1後		2			1				
	物性物理化学特論	1前		2			1				
	材料物性化学特論	1前		2			1				
	分離工学特論	1前		2		1					
	物質移動特論	1後		2			1				
	界面化学工学特論	1前		2			1				
	地球環境化学特論	1後		2			1				
	機能材料化学技術者教育特論	2前		2			1				
	機能材料化学国際先進研究特論	2後		2			1				
	構造材料技術特論	2前		2							1
	機能材料技術特論	1前		2							1
	ナノ物質技術特論	2後		2							1
	機能材料化学特別研究Ⅰ	1前	8			7	7				
	機能材料化学特別研究Ⅱ	1後	8			7	7				
	機能材料化学特別研究Ⅲ	2前	8			7	7				
	機能材料化学特別研究Ⅳ	2後	8			7	7				
	小計(26科目)	－	32	44		7	7				3
合計(54科目)			－	41	68		37	42	5		84
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜機能材料化学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から材料化学特論を除く。 ○ 専門科目の必修科目32単位。 機能材料化学特別研究Ⅰ、機能材料化学特別研究Ⅱ、機能材料化学特別研究Ⅲ、機能材料化学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から16単位以上。 機能材料化学基礎特論、機能材料化学特論、機能材料化学応用特論、錯体材料化学特論、無機材料化学特論、セラミックス化学特論、電極機能材料化学特論、反応有機化学特論、物性有機化学特論、高分子物理化学特論、光電子機能材料化学特論、物性物理化学特論、材料物性化学特論、分離工学特論、物質移動特論、界面化学工学特論、地球環境化学特論、機能材料化学技術者教育特論、機能材料化学国際先進研究特論、構造材料技術特論、機能材料技術特論、ナノ物質技術特論 ○ 学位は修士（工学）											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
- ・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
- ・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
- ・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。

- (注) ・ 2(1)ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
10 科目	44 科目	0 科目	54 科目	10 科目 [0]	44 科目 [0]	0 科目 [0]	54 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{54} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<理工学研究科理工学専攻 機械エネルギー工学コース>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1				1				
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシ ップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
小計(21科目)	－	6	20		33	36	4			63	
専 門 科 目	流体工学特論	1前		2		1					
	熱力学特論	1前		2				1			
	材料力学特論	1前		2		1					
	機械力学特論	1後		2		1					
	機械システム工学PBL	1後		2		1	2				
	計測制御特論	2前		2		1					
	熱エネルギー工学特論	2後		2		1					
	熱輸送工学特論	1前		2			1				
	熱物質移動工学特論	1前		2			1				
	流体エネルギー特論	1後		2			1				
	流動システム工学特論	1後		2			1				
	海洋工学特論	1後		2			1				
	海洋システム設計特論	1後		2		1					
	エネルギー機関特論	2前		2		1					
	エネルギー変換特論	2前		2		1					
	流体エネルギー力学特論	2前		2		1					
	海洋環境特論	2前		2			1				
	機械エネルギー工学特別研究Ⅰ	1前	5			6	5	1			
	機械エネルギー工学特別研究Ⅱ	1後	5			6	5	1			
	機械エネルギー工学特別研究Ⅲ	2前	10			6	5	1			
	機械エネルギー工学特別研究Ⅳ	2後	10			6	5	1			
小計(21科目)	－	30	34		10	7	1				
合計(49科目)		－	39	58		39	41	4			68
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <機械エネルギー工学コース> ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ、機械エネルギー工学特別研究Ⅱ、機械エネルギー工学特別研究Ⅲ、機械エネルギー工学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論、熱力学特論、材料力学特論、機械力学特論、機械システム工学PBL、計測制御特論、熱エネルギー工学特論、熱輸送工学特論、熱物質移動工学特論、流体エネルギー特論、流動システム工学特論、海洋工学特論、海洋システム設計特論、エネルギー機関特論、エネルギー変換特論、流体エネルギー力学特論、海洋環境特論 ○学位は修士（工学）											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1					1			
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシ ップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特論	1後		1		2					
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
小計(21科目)	－	6	20		32	36	5			64	
専 門 科 目	流体工学特論	1前		2		1					
	熱力学特論	1前		2				1			
	材料力学特論	1前		2		1					
	機械力学特論	1後		2		1					
	機械システム工学PBL	1後		2		1	2				
	計測制御特論	2前		2		1					
	熱エネルギー工学特論	2後		2		1					
	熱輸送工学特論	1前		2			1				
	熱物質移動工学特論	1前		2			1				
	流体エネルギー特論	1後		2			1				
	流動システム工学特論	1後		2			1				
	海洋工学特論	1後		2		1					
	海洋システム設計特論	1後		2		1					
	エネルギー機関特論	2前		2		1					
	エネルギー変換特論	2前		2		1					
	流体エネルギー力学特論	2前		2		1					
	海洋環境特論	2前		2			1				
	機械エネルギー工学特別研究Ⅰ	1前	5			6	5	1			
	機械エネルギー工学特別研究Ⅱ	1後	5			6	5	1			
	機械エネルギー工学特別研究Ⅲ	2前	10			6	5	1			
	機械エネルギー工学特別研究Ⅳ	2後	10			6	5	1			
小計(21科目)	－	30	34		11	7	1				
合計(49科目)		－	39	58		39	41	5			81
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <機械エネルギー工学コース> ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ、機械エネルギー工学特別研究Ⅱ、機械エネルギー工学特別研究Ⅲ、機械エネルギー工学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論、熱力学特論、材料力学特論、機械力学特論、機械システム工学PBL、計測制御特論、熱エネルギー工学特論、熱輸送工学特論、熱物質移動工学特論、流体エネルギー特論、流動システム工学特論、海洋工学特論、海洋システム設計特論、エネルギー機関特論、エネルギー変換特論、流体エネルギー力学特論、海洋環境特論 ○ 学位は修士（工学）											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
- ・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
- ・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
- ・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。
- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「海洋工学特論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、及び担当教員を「准教授1」から「准教授0」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	39 科目	0 科目	49 科目	10 科目 [0]	39 科目 [0]	0 科目 [0]	49 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{49} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 機械システム工学コース＞

（１）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		33	36	4			63
専門科目	流体工学特論	1前		2		1					
	熱力学特論	1前		2				1			
	材料力学特論	1前		2		1					
	機械力学特論	1後		2		1					
	機械システム工学PBL	1後		2		1	2				
	計測制御特論	2前		2		1					
	熱エネルギー工学特論	2後		2		1					
	機械材料学特論	1前		2			1				
	精密機器工学特論	1前		2		1					
	潤滑工学特論	1後		2			1				
	ロボット工学特論	1後		2		1					
	応用力学特論	1後		2		1					
	生産加工学特論	1後		2			1				
	表面工学特論	2前		2			1				
	固体力学特論	2前		2		1					
	材料強度学特論	2前		2			1				
	計算力学特論	2後		2			1				
	機械システム工学特別研究Ⅰ	1前	5			5	6				
	機械システム工学特別研究Ⅱ	1後	5			5	6				
	機械システム工学特別研究Ⅲ	2前	10			5	6				
	機械システム工学特別研究Ⅳ	2後	10			5	6				
	小計(21科目)	－	30	34		7	6	1			
合計(49科目)			－	39	58		37	40	4		68
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜機械システム工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械システム工学特別研究Ⅰ、機械システム工学特別研究Ⅱ、機械システム工学特別研究Ⅲ、機械システム工学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論、熱力学特論、材料力学特論、機械力学特論、機械システム工学PBL、計測制御特論、熱エネルギー工学特論、機械材料学特論、精密機器工学特論、潤滑工学特論、ロボット工学特論、応用力学特論、生産加工学特論、表面工学特論、固体力学特論、材料強度学特論、計算力学特論 ○学位は修士（工学）											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1					1			
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特	1後		1		2					
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
	小計(21科目)	－	6	20		32	36	5			64
専門科目	流体工学特論	1前		2		1					
	熱力学特論	1前		2				1			
	材料力学特論	1前		2		1					
	機械力学特論	1後		2		1					
	機械システム工学PBL	1後		2		1	2				
	計測制御特論	2前		2		1					
	熱エネルギー工学特論	2後		2		1					
	機械材料学特論	1前		2			1				
	精密機器工学特論	1前		2		1					
	潤滑工学特論	1後		2			1				
	ロボット工学特論	1後		2		1					
	応用力学特論	1後		2		1					
	生産加工学特論	1後		2			1				
	表面工学特論	2前		2			1				
	固体力学特論	2前		2		1					
	材料強度学特論	2前		2			1				
	計算力学特論	2後		2			1				
	機械システム工学特別研究Ⅰ	1前	5			5	6				
	機械システム工学特別研究Ⅱ	1後	5			5	6				
	機械システム工学特別研究Ⅲ	2前	10			5	6				
	機械システム工学特別研究Ⅳ	2後	10			5	6				
	小計(21科目)	－	30	34		7	6	1			
合計(49科目)			－	39	58		36	40	5		81
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜機械システム工学コース＞ ○ 自然科学系研究科共通科目から機械工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目30単位。 機械システム工学特別研究Ⅰ、機械システム工学特別研究Ⅱ、機械システム工学特別研究Ⅲ、機械システム工学特別研究Ⅳ コースが指定する専門科目の選択科目から18単位以上。 流体工学特論、熱力学特論、材料力学特論、機械力学特論、機械システム工学PBL、計測制御特論、熱エネルギー工学特論、機械材料学特論、精密機器工学特論、潤滑工学特論、ロボット工学特論、応用力学特論、生産加工学特論、表面工学特論、固体力学特論、材料強度学特論、計算力学特論 ○学位は修士（工学）											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】			
・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。			
・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。			
・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。			
・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。			
・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。			
・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。			
・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。			
・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。			
・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。			
・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。			

- (注) ・ 2(1)ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
10 科目	39 科目	0 科目	49 科目	10 科目 [0]	39 科目 [0]	0 科目 [0]	49 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{49} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<理工学研究科理工学専攻 電気電子工学コース>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
			修	択	由						
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1				1				
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	ー	3	4		3	3				5
	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシ ップ	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(21科目)	ー	6	20		31	38	4			63
専 門 科 目	物質情報エレクトロニクス特論	1前		2			1				
	光量子エレクトロニクス特論	1前		2			1				
	集積回路プロセス工学特論	1前		2			1				
	電子情報システム設計特論	1前		2			1				
	システムLSI回路設計特論	1前		2			1				
	ワイヤレス通信システム特論	1前		2			1				
	マイクロ波集積回路特論	1前		2			1				
	シンクロトロン光利用科学技術工学特論	1後		2			1				
	計算論的知能工学特論	1後		2			1				
	グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論	1後		2			1				
	適応システム特論	1後		2			1				
	プロセスプラズマ工学特論	1後		2			1				
	パルスパワー工学特論	1後		2			1				
	電力システム工学特論	1後		2			1				
	高周波回路設計特論	1後		2			1				
	データ解析工学特論	1後		2			1				
	新・省エネルギー工学特論	1後		2			1				
	電気電子実務者教育特論	1後		2							
	電気電子工学特論	1前		2			3	1			4
	電気電子工学特別研究Ⅰ	1前		8			7	11			
	電気電子工学特別研究Ⅱ	1後		8			7	11			
	電気電子工学特別研究Ⅲ	2前		8			7	11			
	電気電子工学特別研究Ⅳ	2後		10			7	11			
	小計(23科目)	ー	36	36		7	11				4
合計(51科目)			ー	45	60		38	45	4		68
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <電気電子工学コース> ○ 自然科学系研究科共通科目から電気電子工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目36単位。 電気電子工学特論、電気電子工学特別研究Ⅰ、電気電子工学特別研究Ⅱ、電気電子工学特別研究Ⅲ、電気電子工学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から12単位以上。 物質情報エレクトロニクス特論、光量子エレクトロニクス特論、集積回路プロセス工学特論、電子情報システム設計特論、システムLSI回路設計特論、ワイヤレス通信システム特論、マイクロ波集積回路特論、シンクロトロン光利用科学技術工学特論、計算論的知能工学特論、グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論、適応システム特論、プロセスプラズマ工学特論、パルスパワー工学特論、電力システム工学特論、高周波回路設計特論、データ解析工学特論、新・省エネルギー工学特論、電気電子実務者教育特論 ○ 学位は修士(工学)											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
			修	択	由						
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1						1		
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	ー	3	4		4	4	1			20
	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
自 然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシ ップ	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	都市工学通論	1後		1			4				
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(21科目)	ー	6	20		30	38	5			62
専 門 科 目	物質情報エレクトロニクス特論	1前		2			1				
	光量子エレクトロニクス特論	1前		2			1				
	集積回路プロセス工学特論	1前		2			1				
	電子情報システム設計特論	1前		2				1			
	システムLSI回路設計特論	1前		2				1			
	ワイヤレス通信システム特論	1前		2			1				
	マイクロ波集積回路特論	1前		2			1				
	シンクロトロン光利用科学技術工学特論	1後		2				1			
	計算論的知能工学特論	1後		2				1			
	グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論	1後		2			1				
	適応システム特論	1後		2				1			
	プロセスプラズマ工学特論	1後		2			1				
	パルスパワー工学特論	1後		2				1			
	電力システム工学特論	1後		2			1				
	高周波回路設計特論	1後		2				1			
	データ解析工学特論	1後		2				1			
	新・省エネルギー工学特論	1後		2				1			
	電気電子実務者教育特論	1後		2							
	電気電子工学特論	1前		2			3	1			4
	電気電子工学特別研究Ⅰ	1前		8			7	10			
	電気電子工学特別研究Ⅱ	1後		8			7	10			
	電気電子工学特別研究Ⅲ	2前		8			7	10			
	電気電子工学特別研究Ⅳ	2後		10			7	10			
	小計(23科目)	ー	36	36		7	10				4
合計(51科目)			ー	45	60		37	44	5		81
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 <電気電子工学コース> ○ 自然科学系研究科共通科目から電気電子工学概論を除く。 ○ 専門科目の必修科目36単位。 電気電子工学特論、電気電子工学特別研究Ⅰ、電気電子工学特別研究Ⅱ、電気電子工学特別研究Ⅲ、電気電子工学特別研究Ⅳ ○ コースが指定する専門科目の選択科目から12単位以上。 物質情報エレクトロニクス特論、光量子エレクトロニクス特論、集積回路プロセス工学特論、電子情報システム設計特論、システムLSI回路設計特論、ワイヤレス通信システム特論、マイクロ波集積回路特論、シンクロトロン光利用科学技術工学特論、計算論的知能工学特論、グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論、適応システム特論、プロセスプラズマ工学特論、パルスパワー工学特論、電力システム工学特論、高周波回路設計特論、データ解析工学特論、新・省エネルギー工学特論、電気電子実務者教育特論 ○ 学位は修士(工学)											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
- ・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
- ・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
- ・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
- ・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授10」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授10」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授10」に変更。
- ・ 担当教員異動により、「電気電子工学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授10」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
11 科目	40 科目	0 科目	51 科目	11 科目 [0]	40 科目 [0]	0 科目 [0]	51 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{51} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<理工学研究科理工学専攻 都市基盤工学コース>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1				1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2					
	データサイエンス特論	1後	1			1						
	学術英語特論	1前・後		1							1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2	
	キャリアデザイン特論	1後		1							1	
	多文化共生理解	1前		1							1	
	小計(7科目)	－	3	4		3	3				5	
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2				14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2				19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1						
	医学・看護学概論	1前		1								6
	農学総合概論	1前		1								4
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1						
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1						
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1						
	数学概論	1後		1		3	3	2				
	物理学概論	1後		1		1						
	知能情報工学概論	1後		1		1						
	材料化学特論	1後		1		2						
	機械工学概論	1後		1			3	1				
	電気電子工学概論	1後		1		3	1					4
	人体構造機能学概論	1前		1								6
	人体構造実習	1・2通		1								6
	看護理論	1前		1								4
	生物科学特論	1後		1								4
	生命機能科学特論	1後		1								6
	食資源環境科学特論	1後		1								8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1								5
小計(21科目)	－	6	20		33	34	4				63	
専門科目	水環境システム工学特論	1前	2				1					
	土質力学特論	1前	2			1						
	応用流体力学特論	1後	2				1					
	構造工学特論	1後	2			2						
	都市構成システム論	1後		2			1					
	維持管理工学特論	1後		2		1						
	国際都市・環境特別演習	1前・後		2		4	3					
	環境地盤工学特論	2前		2		1						
	地盤工学特論	1後		2			1					
	水工学特論	1前		2		1						
	水環境情報学特論	1前		2		1						
	環境輸送特論	1前		2		1						
	水処理工学特論	1後		2				1				
	低平地地圏環境学特論	1前		2		1						
	低平地水圏環境学特論	1前		2		1						
	低平地防災地盤工学特論	1後		2			1					
	非線形構造解析学特論	1前		2		1						
	建設材料学特論	1前		2		1						
	地震工学特論	1後		2		1						
	都市基盤工学特別研究Ⅰ	1前	5			9	11	1				
	都市基盤工学特別研究Ⅱ	1後	5			9	11	1				
	都市基盤工学特別研究Ⅲ	2前	10			9	11	1				
	都市基盤工学特別研究Ⅳ	2後	10			9	11	1				
小計(23科目)	－	38	30		9	11	1					
合計(51科目)	－	47	54		41	43	5				68	
卒業要件及び履修方法												
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜都市基盤工学コース＞ ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 水環境システム工学特論、土質力学特論、応用流体力学特論、構造工学特論、都市基盤工学特別研究Ⅰ、都市基盤工学特別研究Ⅱ、都市基盤工学特別研究Ⅲ、都市基盤工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、国際都市・環境特別演習、環境地盤工学特論、地盤工学特論、水工学特論、水環境情報学特論、環境輸送特論、水処理工学特論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学）												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1					1			
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1前		1							1
	多文化共生理解	1前		1							8
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
	知的財産特論	1後	2								
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							9
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1	1				
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							5
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント特論	1後		1							5
小計(21科目)	－	6	20		32	34	5			64	
専門科目	水環境システム工学特論	1前	2				1				
	土質力学特論	1前	2			1					
	応用流体力学特論	1後	2				1				
	構造工学特論	1後	2			2					
	都市構成システム論	1後		2			1				
	維持管理工学特論	1後		2		1					
	国際都市・環境特別演習	1前・後		2		4	3				
	環境地盤工学特論	2前		2		1					
	地盤工学特論	1後		2				1			
	水工学特論	1前		2		1					
	水環境情報学特論	1前		2		1					
	環境輸送特論	1前		2		1					
	水処理工学特論	1後		2				1			
	低平地地圏環境学特論	1前		2		1					
	低平地水圏環境学特論	1前		2		1					
	低平地防災地盤工学特論	1後		2		1					
	非線形構造解析学特論	1前		2		1					
	建設材料学特論	1前		2		1					
	地震工学特論	1後		2		1					
	都市基盤工学特別研究Ⅰ	1前	5			9	8	2			
	都市基盤工学特別研究Ⅱ	1後	5			9	8	2			
	都市基盤工学特別研究Ⅲ	2前	10			9	8	2			
	都市基盤工学特別研究Ⅳ	2後	10			9	8	2			
小計(23科目)	－	38	30		9	8	2				
合計(51科目)	－	47	54		40	41	6			81	
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜都市基盤工学コース＞ ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 水環境システム工学特論、土質力学特論、応用流体力学特論、構造工学特論、都市基盤工学特別研究Ⅰ、都市基盤工学特別研究Ⅱ、都市基盤工学特別研究Ⅲ、都市基盤工学特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、国際都市・環境特別演習、環境地盤工学特論、地盤工学特論、水工学特論、水環境情報学特論、環境輸送特論、水処理工学特論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学）											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】			
・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。			
・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。			
・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。			
・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。			
・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。			
・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。			
・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。			
・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。			
・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。			
・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。			
・ 担当教員異動により、「地盤工学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。			
・ 担当教員異動により、「低平地防災地盤工学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「教授0」から「教授1」に変更。			
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。			
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。			
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。			
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「都市基盤工学特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。			

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
14 科目	37 科目	0 科目	51 科目	14 科目 [0]	37 科目 [0]	0 科目 [0]	51 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{51} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科理工学専攻 建築環境デザインコース＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院 院教養 教育 プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			1					
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2				
	データサイエンス特論	1後	1			1					
	学術英語特論	1前・後		1							1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2
	キャリアデザイン特論	1後		1							1
	多文化共生理解	1前		1							1
	小計(7科目)	ー	3	4		3	3				5
自然 科学 系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			14	13	3			12
	創成科学PBL特論	1前・後	2			19	22	3			15
	知的財産特論	1後	2			1					
	医学・看護学概論	1前		1							6
	農学総合概論	1前		1							4
	創成科学インターンシ ップS	1・2前・後		1		1					
	創成科学インターンシ ップL	1・2前・後		2		1					
	理工学特別講義	1・2前・後		2		1					
	数学概論	1後		1		3	3	2			
	物理学概論	1後		1		1					
	知能情報工学概論	1後		1		1					
	材料化学特論	1後		1		2					
	機械工学概論	1後		1			3	1			
	電気電子工学概論	1後		1		3	1				4
	人体構造機能学概論	1前		1							6
	人体構造実習	1・2通		1							6
	看護理論	1前		1							4
	生物科学特論	1後		1							4
	生命機能科学特論	1後		1							6
	食資源環境科学特論	1後		1							8
	国際・地域マネジメント 特論	1後		1							5
	小計(21科目)	ー	6	20		33	34	4			63
専門 科目	建築環境デザイン特別演習Ⅰ	1前	3			1					
	建築環境デザイン特別演習Ⅱ	1後	3				1				
	建築環境設計特別演習	1後	2			1	1				
	都市構成システム論	1後		2			1				
	維持管理工学特論	1後		2		1					
	建築特別インターンシ ップA	1前・後		2			1				
	建築特別インターンシ ップB	1前・後		2			1				
	国際都市・環境特別演習	1前・後		2		4	3				
	地域デザイン特別演習	1後		2			2				
	都市デザイン特論	1前		2		1					
	建築デザイン論	1前		2			1				
	建築環境工学特論	1前		2		1					
	建築環境設計特論	1前		2			1				
	建築都市空間論	1前		2			1				
	住環境論	1後		2			1				
	低平地地圏環境学特論	1前		2		1					
	低平地水圏環境学特論	1前		2		1					
	低平地防災地盤工学特論	1後		2			1				
	非線形構造解析学特論	1前		2		1					
	構造工学特論	1後		2		2					
	建設材料学特論	1前		2		1					
	地震工学特論	1後		2		1					
	建築環境デザイン特別研究Ⅰ	1前	5			9	11	1			
	建築環境デザイン特別研究Ⅱ	1後	5			9	11	1			
	建築環境デザイン特別研究Ⅲ	2前	10			9	11	1			
	建築環境デザイン特別研究Ⅳ	2後	10			9	11	1			
	小計(26科目)	ー	38	38		9	11	1			
合計(54科目)			ー	47	62		41	43	5		68
卒業要件及び履修方法											
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜建築環境デザインコース＞ ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 建築環境デザイン特別演習Ⅰ、建築環境デザイン特別演習Ⅱ、建築環境設計特別演習、建築環境デザイン特別研究Ⅰ、建築環境デザイン特別研究Ⅱ、建築環境デザイン特別研究Ⅲ、建築環境デザイン特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、建築特別インターンシップA、建築特別インターンシップB、国際都市・環境特別演習、地域デザイン特別演習、都市デザイン特論、建築デザイン論、建築環境工学特論、建築環境設計特論、建築都市空間論、住環境論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、構造工学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学）											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修 単 位	選 択 単 位	自 由 単 位	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
大 学 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1					1				
	情報セキュリティ特論	1前	1			2	2					
	データサイエンス特論	1後	1			3	3				8	
	学術英語特論	1前・後		1							1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1							2	
	キャリアデザイン特論	1前		1							1	
	多文化共生理解	1前		1							8	
	小計(7科目)	－	3	4		4	4	1			20	
	自然 科 学 系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			13	13	3			12
		創成科学PBL特論	1前・後	2			18	21	4			15
知的財産特論		1後	2			1						
医学・看護学概論		1前		1							6	
農学総合概論		1前		1							9	
創成科学インターンシ ップS		1・2前・後		1		1						
創成科学インターンシ ップL		1・2前・後		2		1						
理工学特別講義		1・2前・後		2		1						
数学概論		1後		1		3	3	2				
物理学概論		1後		1		1						
知能情報工学概論		1後		1		1	1					
材料化学特		1後		1		2						
機械工学概論		1後		1			3	1				
電気電子工学概論		1後		1		3	1				4	
人体構造機能学概論		1前		1							6	
人体構造実習		1・2通		1							5	
看護理論		1前		1							4	
生物科学特論		1後		1							4	
生命機能科学特論		1後		1							6	
食資源環境科学特論		1後		1							8	
国際・地域マネジメント 特論		1後		1							5	
小計(21科目)		－	6	20		32	34	5			64	
専 門 科 目		建築環境デザイン特別演習Ⅰ	1前	3			1					
		建築環境デザイン特別演習Ⅱ	1後	3				1				
		建築環境設計特別演習	1後	2			1	1				
		都市構成システム論	1後		2			1				
	維持管理工学特論	1後		2		1						
	建築特別インターンシップA	1前・後		2			1					
	建築特別インターンシップB	1前・後		2			1					
	国際都市・環境特別演習	1前・後		2		4	3					
	地域デザイン特別演習	1後		2			2					
	都市デザイン特論	1前		2		1						
	建築デザイン論	1前		2			1					
	建築環境工学特論	1前		2		1						
	建築環境設計特論	1前		2			1					
	建築都市空間論	1前		2			1					
	住環境論	1後		2			1					
	低平地地圏環境学特論	1前		2		1						
	低平地水圏環境学特論	1前		2		1						
	低平地防災地盤工学特論	1後		2		1						
	非線形構造解析学特論	1前		2		1						
	構造工学特論	1後		2		2						
	建設材料学特論	1前		2		1						
	地震工学特論	1後		2		1						
	建築環境デザイン特別研究Ⅰ	1前	5			9	8	2				
	建築環境デザイン特別研究Ⅱ	1後	5			9	8	2				
	建築環境デザイン特別研究Ⅲ	2前	10			9	8	2				
	建築環境デザイン特別研究Ⅳ	2後	10			9	8	2				
小計(26科目)	－	38	38		9	8	2					
合計(54科目)		－	47	62		40	41	6			81	
卒業要件及び履修方法												
大学院理工学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○ 大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○ 自然科学系研究科共通科目から必修科目6単位を含めて8単位以上。 各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目および他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。 ＜建築環境デザインコース＞ ○自然科学系研究科共通科目から都市工学通論を除く。 ○専門科目の必修科目38単位。 建築環境デザイン特別演習Ⅰ、建築環境デザイン特別演習Ⅱ、建築環境設計特別演習、建築環境デザイン特別研究Ⅰ、建築環境デザイン特別研究Ⅱ、建築環境デザイン特別研究Ⅲ、建築環境デザイン特別研究Ⅳ ○コースが指定する専門科目の選択科目から10単位以上。 都市構成システム論、維持管理工学特論、建築特別インターンシップA、建築特別インターンシップB、国際都市・環境特別演習、地域デザイン特別演習、都市デザイン特論、建築デザイン論、建築環境工学特論、建築環境設計特論、建築都市空間論、住環境論、低平地地圏環境学特論、低平地水圏環境学特論、低平地防災地盤工学特論、非線形構造解析学特論、構造工学特論、建設材料学特論、地震工学特論 ○学位は修士（工学）												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】
・ 完成年度で申請を行ったことにより、「研究・職業倫理特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「講師0」から「講師1」に変更。
・ 科目の充実のため、「データサイエンス特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に、「准教授0」から「准教授3」に、及び「兼0」から「兼8」に変更。
・ 学内調整による開講時期の変更により、「キャリアデザイン特論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
・ 科目の充実のため、「多文化共生理解」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼8」に変更。
・ 担当教員異動により、「創成科学融合特論」の専任教員等の配置を「教授14」から「教授13」に変更。
・ 担当教員異動により、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「教授19」から「教授18」に変更。
・ 完成年度で申請を行ったことにより、「創成科学PBL特論」の専任教員等の配置を「准教授22」から「准教授21」に、及び「講師3」から「講師4」に変更。
・ 学内調整による担当教員の見直しにより、「農学総合概論」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼9」に変更する。
・ 科目の充実のため、「知能情報工学概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
・ 担当教員退職により、「人体構造実習」の専任教員等の配置を「兼6」から「兼5」に変更。
・ 担当教員異動により、「低平地防災地盤工学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「教授0」から「教授1」に変更。
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。
・ 担当教員異動及び完成年度で申請を行ったことにより、「建築環境デザイン特別研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「准教授11」から「准教授8」に、及び「講師1」から「講師2」に変更。

- (注) ・ 2(1)ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	41 科目	0 科目	54 科目	13 科目 [0]	41 科目 [0]	0 科目 [0]	54 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{54} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※ 大学全体 借地面積 16,116 ㎡			
	校 舎 敷 地	332,968 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	332,968 ㎡				
	運動場用地	96,879 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	96,879 ㎡				
	小 計	429,847 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	429,847 ㎡				
	そ の 他	400,449 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	400,449 ㎡				
	合 計	830,296 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	830,296 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※ 大学全体			
		153,878 ㎡ (154,060 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	153,878 ㎡ (154,060 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	※ 大学全体 改修工事によるもの。 (元)		
		111 室 112 室	111 室 113 室	443 室 472 室	16 室 (補助職員 - 人)	4 室 (補助職員 - 人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		改修工事によるもの。 (元)		
		理工学研究科			105 118 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用部分 を含む。 完成年度の修正は、 伸び率を見直したこ とによるもの。 (元)	
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕						
	大学全体	706,224 [219,719] 709,062 [221,903] (708,854 [220,829]) -(709,272 [222,323])	11,881 [4,097] 11,880 [4,096] 11,881 [4,097] 11,880 [4,096]	5,398 [3,997] 5,444 [4,146] 5,398 [3,997] 5,444 [4,146]	1,448 2,890 (1,418) (2,770)	7,429 8,106 (6,970) (6,372)	366 230 (362) (230)		
	計	706,224 [219,719] 709,062 [221,903] (708,854 [220,829]) -(709,272 [222,323])	11,881 [4,097] 11,880 [4,096] 11,881 [4,097] 11,880 [4,096]	5,398 [3,997] 5,444 [4,146] 5,398 [3,997] 5,444 [4,146]	1,448 2,890 (1,418) (2,770)	7,429 8,106 (6,970) (6,372)	366 230 (362) (230)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		面積は誤謬によるもの。閲覧座 席数は座席を増やしたもの。収 納可能冊数は誤謬によるもの。 (元) ※ 大学全体	
		7,439 ㎡ 7,887 ㎡		827 席 819 席		580,861 冊 571,361 冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				※ 大学全体	
		5,543 ㎡		陸上競技場，野球場，テニスコート，弓道場，プール					
(8)経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当 り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	佐 賀 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
教育学部										
学校教育課	4	120	－	480	学士 (学校教育)	1.05		平成28年	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
芸術地域デザイン学部										
芸術地域デザイン学科	4	110	3年次 5	450	学士 (芸術) 学士 (地域デザイ ン)	1.05		平成28年	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
経済学部	4	260	－	1040		1.05				
経済学科	4	110	－	440	学士 (経済学)	1.06		平成25年	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
経営学科	4	80	－	320	学士 (経済学)	1.04		平成25年	同上	
経済法学科	4	70	－	280	学士 (経済学)	1.03		平成25年	同上	
医学部						1.00				
医学科	6	106	－	636	学士 (医学)	1.00		昭和53年度	佐賀県佐賀市鍋 島五丁目1番1号	
看護学科	4	60	－	240	学士 (看護学)	1.00		平成5年度	同上	
理工学部										
理工学科	4	480	3年次 10	1950	学士 (理学) 学士 (工学)	1.09		平成31年	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
農学部										
生物資源科学科	4	145	－	580	学士 (農学)	1.00		平成31年	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
【研究科】										
学校教育学研究科										
(専門職学位課程)										
教育実践探究専攻	2	20	－	40	教職修士 (専門職)	1.00		平成28年度	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
地域デザイン研究科										
(修士課程)										
地域デザイン専攻	2	20	－	40	修士 (地域デザ イン)	0.92		平成28年度	佐賀県佐賀市本 庄町1番地	
医学系研究科										
(博士課程)										
医科学専攻	4	25	－	100	博士 (医学)	0.89		平成20年度	佐賀県佐賀市鍋 島五丁目1番1号	

先進健康科学研究科 (修士課程) 先進健康科学専攻	2	52	—	104	修士 (医科学) 修士 (看護学) 修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (農学)	0.96	平成31年	佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
理工学研究科 (修士課程) 理工学専攻	2	167	—	334	修士 (理学) 修士 (工学)	0.85	平成31年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
工学系研究科 (博士後期課程) システム創成科学専攻	3	24	—	72	博士 (学術) 博士 (理学) 博士 (工学)	0.58	平成22年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	2	32	—	64	修士 (農学)	0.71	平成31年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<理工学研究科 理工学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	北村 二雄 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	永田 修一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		海洋工学特論
専	教授	遠藤 隆 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		量子光学 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	古川 達也 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	渡 孝則 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学インターンシップS 創成科学インターンシップL 理工学特別講義 知的財産特論 無機材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	石田 茂資 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		海洋システム設計特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	井嶋 克志 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		構造工学特論※ 地震工学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	市川 尚志 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 代数学特論Ⅰ 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	教授	杉山 晃 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学融合特論 高エネルギー物理学Ⅱ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	大石 祐司 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 高分子物理化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	北村 二雄 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	永田 修一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		海洋工学特論
専	教授	古川 達也 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	渡 孝則 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学インターンシップS 創成科学インターンシップL 理工学特別講義 知的財産特論 無機材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	石田 茂資 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		海洋システム設計特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	井嶋 克志 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		構造工学特論※ 地震工学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	市川 尚志 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 代数学特論Ⅰ 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	教授	杉山 晃 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学融合特論 高エネルギー物理学Ⅱ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	大石 祐司 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 高分子物理化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	柴 錦春 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 環境地盤工学特論 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	梶木屋 龍治 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 解析学特論Ⅰ 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	教授	辻村 健 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創造科学PBL特論 機械力学特論 応用力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	山下 義行 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		高性能計算特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	只木 進一 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		情報セキュリティ特論※ モデル化とシミュレーション特論【隔年】 オブジェクト指向プログラミング特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	花本 猛士 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学PBL特論 反応有機化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	張（江越） 波 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 精密機器工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	嘉数 誠 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電力システム工学特論 電気電子実務者教育特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	船久保 公一 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		物理学概論 素粒子物理学 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	大石 敏之 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ マイクロ波集積回路特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	宮良 明男 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 熱エネルギー工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	柴 錦春 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 環境地盤工学特論 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	梶木屋 龍治 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 解析学特論Ⅰ 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	教授	辻村 健 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創造科学PBL特論 機械力学特論 応用力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	山下 義行 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		高性能計算特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	只木 進一 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		情報セキュリティ特論※ モデル化とシミュレーション特論【隔年】 オブジェクト指向プログラミング特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	花本 猛士 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学PBL特論 反応有機化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	張（江越） 波 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 精密機器工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	嘉数 誠 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電力システム工学特論 電気電子実務者教育特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	船久保 公一 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		物理学概論 素粒子物理学 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	大石 敏之 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ マイクロ波集積回路特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	宮良 明男 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 熱エネルギー工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	服部 信祐 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 材料力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	松尾 繁 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 流体力学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	大串 浩一郎 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		水工学特論【隔年】 水環境情報学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	河野 宏明 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		量子力学特論Ⅱ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	花田 英輔 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 オペレーティングシステム特論 【隔年】 情報ネットワーク特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	豊田 一彦 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ ワイヤレス通信システム特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	萩原 世也 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 機械システム工学PBL 固体力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	伊藤 幸広 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		維持管理工学特論【隔年】 建設材料学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	半田 賢司 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 応用数学特論Ⅰ【隔年】 数理科学特論Ⅱ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	教授	鄭 旭光 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 超伝導体物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	服部 信祐 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 材料力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	松尾 繁 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 流体力学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	大串 浩一郎 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		水工学特論【隔年】 水環境情報学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	河野 宏明 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		量子力学特論Ⅱ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	花田 英輔 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 オペレーティングシステム特論 【隔年】 情報ネットワーク特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	豊田 一彦 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ ワイヤレス通信システム特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	萩原 世也 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論 機械システム工学PBL 固体力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	教授	伊藤 幸広 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		維持管理工学特論【隔年】 建設材料学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	半田 賢司 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		データサイエンス特論 創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 応用数学特論Ⅰ【隔年】 数理科学特論Ⅱ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	教授	鄭 旭光 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学PBL特論 超伝導体物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	郭 其新 () <平成31年4月> 博士(工学)
		量子エレクトロニクス特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	池上 康之 () <平成31年4月> 工学博士
		エネルギー変換特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	奥村 浩 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 実世界センシング特論【隔年】 実世界モデリング特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	竹下 道範 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 材料化学特論※ 物性有機化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	光武 雄一 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 エネルギー機関特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	三島 伸雄 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 国際都市・環境特別演習 建築環境デザイン特別演習Ⅰ 都市デザイン特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	帯屋 洋之 () <平成31年4月> 博士(工学)
		構造工学特論※ 非線形構造解析学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	山西 博幸 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 環境輸送特論【隔年】 低平地水圏環境学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	中川 泰宏 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 幾何学特論Ⅰ 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	教授	岡崎 泰久 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 人工知能特論 知能情報工学概論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	郭 其新 () <平成31年4月> 博士(工学)
		量子エレクトロニクス特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	池上 康之 () <平成31年4月> 工学博士
		エネルギー変換特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	奥村 浩 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 実世界センシング特論【隔年】 実世界モデリング特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	竹下 道範 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 材料化学特論※ 物性有機化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	光武 雄一 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 エネルギー機関特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	三島 伸雄 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 国際都市・環境特別演習 建築環境デザイン特別演習Ⅰ 都市デザイン特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	帯屋 洋之 () <平成31年4月> 博士(工学)
		構造工学特論※ 非線形構造解析学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	山西 博幸 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 環境輸送特論【隔年】 低平地水圏環境学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
兼任 講師		中川 泰宏 () <平成31年4月> 博士(理学)
		幾何学特論Ⅰ
専	教授	岡崎 泰久 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 人工知能特論 知能情報工学概論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	富永 昌人 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電極機能材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	大津 康德 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 プロセスプラズマ工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	山田 泰教 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		錯体材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	小島 昌一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 建築環境設計特別演習※ 建築環境工学特論【隔年】 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	青木 一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		量子力学 統計力学 数理物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	大渡 啓介 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 材料化学特論※ 分離工学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	木上 洋一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 流体エネルギー力学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	皆本 晃弥 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（数理学）
		データサイエンス数理特論 データサイエンス特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ データサイエンスインターンシップA データサイエンスインターンシップB
専	教授	堀 良彰 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（情報工学）
		情報セキュリティ特論※ 情報システムセキュリティ特論 情報基盤システム学特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	佐藤 和也 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		計測制御特論 ロボット工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	富永 昌人 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電極機能材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	大津 康德 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 プロセスプラズマ工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	教授	山田 泰教 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		錯体材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	小島 昌一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 建築環境設計特別演習※ 建築環境工学特論【隔年】 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	青木 一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		量子力学 統計力学 数理物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	教授	大渡 啓介 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 材料化学特論※ 分離工学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	教授	木上 洋一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 流体エネルギー力学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	教授	皆本 晃弥 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（数理学）
		データサイエンス数理特論 データサイエンス特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ データサイエンスインターンシップA データサイエンスインターンシップB
専	教授	堀 良彰 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（情報工学）
		情報セキュリティ特論※ データサイエンス特論 情報システムセキュリティ特論 情報基盤システム学特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	佐藤 和也 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		計測制御特論 ロボット工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	日野 剛徳 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		土質力学特論 低平地地圏環境学特論【隔年】 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	福田 修 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 サイバーフィジカルシステム開 発PBL【隔年】 情報可視化特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	松前 進 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		並列分散アルゴリズム特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	田中 徹 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ 集積回路プロセス工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	坂井 晃 () ＜平成31年4月＞ 工学博士
		土質力学特論 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	深井 澄夫 () ＜平成31年4月＞ 工学博士
		システムLSI回路設計特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	佐々木 伸一 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ 電子情報システム設計特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	岡山 泰 () ＜平成31年4月＞ 理学博士
		物性物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	江良 正直 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 光電子機能材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	掛下 哲郎 () ＜平成31年4月＞ 工学博士
		要求工学特論【隔年】 ITイノベーション特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	日野 剛徳 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		土質力学特論 低平地地圏環境学特論【隔年】 低平地防災地盤工学特論【隔年】 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	教授	福田 修 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 サイバーフィジカルシステム開 発PBL【隔年】 情報可視化特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	松前 進 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		並列分散アルゴリズム特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	教授	田中 徹 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ 集積回路プロセス工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	坂井 晃 () ＜平成31年4月＞ 工学博士
		土質力学特論
専	准教授	深井 澄夫 () ＜平成31年4月＞ 工学博士
		システムLSI回路設計特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	佐々木 伸一 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※ 電子情報システム設計特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	岡山 泰 () ＜平成31年4月＞ 理学博士
		物性物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	江良 正直 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 光電子機能材料化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	掛下 哲郎 () ＜平成31年4月＞ 工学博士
		要求工学特論【隔年】 ITイノベーション特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	原 重臣 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 データ解析工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	田中 高行 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 高周波回路設計特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	西山 英輔 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 新・省エネルギー工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	日比野 雄嗣 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 応用数学特論Ⅱ【隔年】 数理科学特論Ⅰ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	准教授	塩見 憲正 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 機械工学概論※ 流体エネルギー特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	馬渡 俊文 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 潤滑工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	和久屋 寛 () <平成31年4月> 工学博士
		計算論的知能工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	猪原 哲 () <平成31年4月> 博士(工学)
		パルスパワー工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	今井 康貴 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 海洋環境特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	兒玉 宏樹 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学PBL特論 地球環境化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	橘 基 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学PBL特論 量子力学特論Ⅰ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	原 重臣 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 データ解析工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	田中 高行 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 高周波回路設計特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	西山 英輔 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 新・省エネルギー工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	日比野 雄嗣 () <平成31年4月> 博士(理学)
		データサイエンス特論 創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 応用数学特論Ⅱ【隔年】 数理科学特論Ⅰ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	准教授	塩見 憲正 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 機械工学概論※ 流体エネルギー特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	馬渡 俊文 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 潤滑工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	和久屋 寛 () <平成31年4月> 工学博士
		計算論的知能工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	猪原 哲 () <平成31年4月> 博士(工学)
		パルスパワー工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	今井 康貴 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 海洋環境特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	兒玉 宏樹 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学PBL特論 地球環境化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	橘 基 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学PBL特論 量子力学特論Ⅰ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	真木 一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論 低温物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	李 海峰 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 国際都市・環境特別演習 都市環境性能特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	日永田 泰啓 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学PBL特論 計算科学特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	矢田 光徳 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 セラミックス化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	有馬 博史 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		熱物質移動工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	後藤 隆太郎 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 地域デザイン特別演習 住環境論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	石渡 洋一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 凝縮系物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	押川 英夫 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 応用流体力学特論 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	房安 貴弘 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		高エネルギー物理学Ⅰ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	東 純平 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		シンクロトロン光応用物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	高橋 和敏 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		シンクロトロン光利用科学技術工学特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	真木 一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論 低温物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	李 海峰 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 国際都市・環境特別演習 都市環境性能特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	日永田 泰啓 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学PBL特論 計算科学特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	矢田 光徳 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 セラミックス化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	有馬 博史 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		熱物質移動工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	後藤 隆太郎 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 地域デザイン特別演習 住環境論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	石渡 洋一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 凝縮系物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	押川 英夫 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 応用流体力学特論 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	房安 貴弘 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		高エネルギー物理学Ⅰ 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	東 純平 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		量子工学 シンクロトロン光応用物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	高橋 和敏 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		シンクロトロン光利用科学技術工学特論 物質情報エレクトロニクス特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	大島 史洋 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 生産加工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	山口 暢彦 () <平成31年4月> 博士(工学)
		学習アルゴリズム特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	福本 尚生 () <平成31年4月> 博士(工学)
		電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	高橋 智 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学融合特論 宇宙物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	伊藤 秀昭 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 適応システム特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	成田 貴行 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 材料物性化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	森田 繁樹 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 機械材料学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	末次 大輔 () <平成31年4月> 博士(工学)
		地盤工学特論【隔年】 低平地防災地盤工学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	坂口 幸一 () <平成31年4月> 博士(理学)
		物性物理化学特論 機能材料化学技術者教育特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	川喜田 英孝 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 物質移動特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	長谷川 裕之 () <平成31年4月> 博士(工学)
		機械工学概論※ 表面工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	大島 史洋 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 生産加工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	山口 暢彦 () <平成31年4月> 博士(工学)
		学習アルゴリズム特論 知能情報工学概論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	福本 尚生 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	高橋 智 () <平成31年4月> 博士(理学)
		創成科学融合特論 宇宙物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	伊藤 秀昭 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学PBL特論 適応システム特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	准教授	成田 貴行 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 材料物性化学特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	森田 繁樹 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創造科学PBL特論 機械材料学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	坂口 幸一 () <平成31年4月> 博士(理学)
		物性物理化学特論 機能材料化学技術者教育特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	川喜田 英孝 () <平成31年4月> 博士(工学)
		創成科学融合特論 物質移動特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	長谷川 裕之 () <平成31年4月> 博士(工学)
		機械工学概論※ 表面工学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	大谷 誠 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		情報セキュリティ特論※ ネットワーク指向システム特論 【隔年】 ユビキタス情報環境特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	森貞 真太郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		界面化学工学特論 機能材料化学国際先進研究特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	平瀬 有人 () ＜平成31年4月＞ 博士（建築学）
		建築環境デザイン特別演習Ⅱ 建築デザイン論【隔年】 建築特別インターンシップA 建築特別インターンシップB 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	VONGTHANASUNTHORN (MATSUYAMA) NARUMOL () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 水環境システム工学特論 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	中山 功一 () ＜平成31年4月＞ 博士（情報学）
		機械学習システム特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	廣友 雅徳 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		情報セキュリティ特論※ 情報システムセキュリティ特論 情報数理構造特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	准教授	只野 裕一 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創造科学PBL特論 機械システム工学PBL 計算力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	猪八重 拓郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 都市構成システム論【隔年】 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	中村 健太郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（数理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 代数学特論Ⅳ【隔年】 幾何学特論Ⅳ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	大谷 誠 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		情報セキュリティ特論※ ネットワーク指向システム特論 【隔年】 ユビキタス情報環境特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	森貞 真太郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		界面化学工学特論 機能材料化学国際先進研究特論 機能材料化学基礎特論 機能材料化学特論 機能材料化学応用特論※ 機能材料化学特別研究Ⅰ 機能材料化学特別研究Ⅱ 機能材料化学特別研究Ⅲ 機能材料化学特別研究Ⅳ
専	准教授	平瀬 有人 () ＜平成31年4月＞ 博士（建築学）
		建築環境デザイン特別演習Ⅱ 建築デザイン論【隔年】 建築特別インターンシップA 建築特別インターンシップB 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	VONGTHANASUNTHORN (MATSUYAMA) NARUMOL () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 水環境システム工学特論 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	中山 功一 () ＜平成31年4月＞ 博士（情報学）
		機械学習システム特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	准教授	廣友 雅徳 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		情報セキュリティ特論※ データサイエンス特論 情報システムセキュリティ特論 情報数理構造特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	准教授	只野 裕一 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創造科学PBL特論 機械システム工学PBL 計算力学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	猪八重 拓郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 都市構成システム論【隔年】 国際都市・環境特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	中村 健太郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（数理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 代数学特論Ⅳ【隔年】 幾何学特論Ⅳ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	武富 紳也 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		機械工学概論※ 機械システム工学PBL 材料強度学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	村上 天元 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		流動システム工学特論 海洋工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	中大窪 千晶 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 建築環境設計特別演習※ 建築環境設計特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	岡田 拓三 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 代数学特論Ⅱ【隔年】 代数学特論Ⅲ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	准教授	仮屋 圭史 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 熱輸送工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	山内 一宏 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学PBL特論 固体物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	宮原 真美子 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 建築都市空間論 地域デザイン特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	木村 拓馬 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論 数理解析特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	准教授	大島 孝仁 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 物質情報エレクトロニクス特論 電気電子工学特別研究Ⅰ 電気電子工学特別研究Ⅱ 電気電子工学特別研究Ⅲ 電気電子工学特別研究Ⅳ
専	講師	石田 賢治 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 機械工学概論※ 熱力学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	武富 紳也 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		機械工学概論※ 機械システム工学PBL 材料強度学特論 機械システム工学特別研究Ⅰ 機械システム工学特別研究Ⅱ 機械システム工学特別研究Ⅲ 機械システム工学特別研究Ⅳ
専	准教授	村上 天元 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		流動システム工学特論 海洋工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	中大窪 千晶 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 建築環境設計特別演習※ 建築環境設計特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	岡田 拓三 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 代数学特論Ⅱ【隔年】 代数学特論Ⅲ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	准教授	仮屋 圭史 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 熱輸送工学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ
専	准教授	山内 一宏 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学PBL特論 固体物理学特論 物理学特別研究Ⅰ 物理学特別研究Ⅱ 物理学特別研究Ⅲ 物理学特別研究Ⅳ
専	准教授	宮原 真美子 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		都市工学通論※ 建築都市空間論 地域デザイン特別演習 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	准教授	木村 拓馬 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		データサイエンス特論 創成科学融合特論 数理解析特論 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ データサイエンス特別研究Ⅰ データサイエンス特別研究Ⅱ データサイエンス特別研究Ⅲ データサイエンス特別研究Ⅳ
専	講師	石田 賢治 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 機械工学概論※ 熱力学特論 機械エネルギー工学特別研究Ⅰ 機械エネルギー工学特別研究Ⅱ 機械エネルギー工学特別研究Ⅲ 機械エネルギー工学特別研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	大月 美佳 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 ソフトウェア設計特論【隔年】 ソフトウェア品質保証特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	講師	猿子 幸弘 () ＜平成31年4月＞ 博士（数理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 幾何学特論Ⅱ【隔年】 幾何学特論Ⅲ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	講師	根上 武仁 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		研究・職業倫理特論 創成科学PBL特論 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	講師	加藤 孝盛 () ＜平成31年4月＞ 博士（数理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 解析学特論Ⅱ【隔年】 解析学特論Ⅲ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	講師	三島 悠一郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		水処理工学特論【隔年】 水環境管理工学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
兼任	教授	稲岡 司 () ＜平成31年4月＞ 博士（保健学） 創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※ 国際・地域マネジメント特論※
兼任	教授	長 裕幸 () ＜平成31年4月＞ 農学博士
		食資源環境科学特論※
兼任	教授	松下 一世 () ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		ダイバーシティ・人権教育特論※
兼任	教授	渡邊 啓一 () ＜平成31年4月＞ 農学博士
		創成科学融合特論 生命機能科学特論※
兼任	教授	長家 智子 () ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
		医学・看護学概論※ 看護理論※
兼任	教授	河野 史 () ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	教授	早川 洋一 () ＜平成31年4月＞ 理学博士
		生物科学特論※
兼任	教授	大島 一里 () ＜平成31年4月＞ 農学博士
		生物科学特論※
兼任	教授	五十嵐 勉 () ＜平成31年4月＞ 文学修士
		国際・地域マネジメント特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	大月 美佳 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 ソフトウェア設計特論【隔年】 ソフトウェア品質保証特論【隔年】 知能情報工学特別研究Ⅰ 知能情報工学特別研究Ⅱ 知能情報工学特別研究Ⅲ 知能情報工学特別研究Ⅳ
専	講師	猿子 幸弘 () ＜平成31年4月＞ 博士（数理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 幾何学特論Ⅱ【隔年】 幾何学特論Ⅲ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	講師	根上 武仁 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		研究・職業倫理特論 創成科学PBL特論 地盤工学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
専	講師	加藤 孝盛 () ＜平成31年4月＞ 博士（数理学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※ 解析学特論Ⅱ【隔年】 解析学特論Ⅲ【隔年】 数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 数学特別研究Ⅲ 数学特別研究Ⅳ
専	講師	三島 悠一郎 () ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		水処理工学特論【隔年】 水環境管理工学特論【隔年】 都市基盤工学特別研究Ⅰ 都市基盤工学特別研究Ⅱ 都市基盤工学特別研究Ⅲ 都市基盤工学特別研究Ⅳ 建築環境デザイン特別研究Ⅰ 建築環境デザイン特別研究Ⅱ 建築環境デザイン特別研究Ⅲ 建築環境デザイン特別研究Ⅳ
兼任	教授	稲岡 司 () ＜平成31年4月＞ 博士（保健学） 創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※ 国際・地域マネジメント特論※
兼任	教授	長 裕幸 () ＜平成31年4月＞ 農学博士
		食資源環境科学特論※
兼任	教授	松下 一世 () ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		ダイバーシティ・人権教育特論※
兼任	教授	渡邊 啓一 () ＜平成31年4月＞ 農学博士
		創成科学融合特論 生命機能科学特論※
兼任	教授	長家 智子 () ＜平成31年4月＞ 博士（教育学）
		医学・看護学概論※ 看護理論※
兼任	教授	河野 史 () ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	教授	早川 洋一 () ＜平成31年4月＞ 理学博士
		生物科学特論※
兼任	教授	大島 一里 () ＜平成31年4月＞ 農学博士
		生物科学特論※
兼任	教授	五十嵐 勉 () ＜平成31年4月＞ 文学修士
		国際・地域マネジメント特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	石丸 幹二 () ＜平成31年 4 月＞ 薬学博士
		創成科学融合特論
兼任	教授	寺本 顕武 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論
兼任	教授	野出 孝一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		医学・看護学概論※
兼任	教授	能城 浩和 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		医学・看護学概論※
兼任	教授	上野 直広 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論
兼任	教授	高椋 利幸 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論
兼任	教授	倉岡 晃夫 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		創成科学融合特論 医学・看護学概論※ 人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	教授	古賀 明美 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		看護理論※
兼任	教授	鯉川 雅之 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学PBL特論
兼任	教授	城戸 瑞穂 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（歯学）
		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	教授	濱 洋一郎 () ＜平成31年 4 月＞ 農学博士
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※ 生命機能科学特論※
兼任	教授	海野 雅司 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論
兼任	教授	小林 元太 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		生命機能科学特論※
兼任	教授	後藤 聡 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	教授	村松 和弘 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	教授	一色 司郎 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※
兼任	教授	近藤 文義 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	教授	鈴木 智恵子 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		看護理論※
兼任	教授	鈴木 章弘 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		生物科学特論※
兼任	教授	穴井 豊昭 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		生物科学特論※
兼任	教授	後藤 正利 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		生命機能科学特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	石丸 幹二 () ＜平成31年 4 月＞ 薬学博士
		創成科学融合特論
兼任	教授	寺本 顕武 () ＜平成31年 4 月＞ 工学博士
		創成科学融合特論
兼任	教授	野出 孝一 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		医学・看護学概論※
兼任	教授	上野 直広 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論
兼任	教授	高椋 利幸 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		創成科学融合特論
兼任	教授	倉岡 晃夫 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		創成科学融合特論 医学・看護学概論※ 人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	教授	古賀 明美 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		看護理論※
兼任	教授	鯉川 雅之 () ＜平成31年 4 月＞ 理学博士
		創成科学PBL特論
兼任	教授	城戸 瑞穂 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（歯学）
		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	教授	濱 洋一郎 () ＜平成31年 4 月＞ 農学博士
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※ 生命機能科学特論※
兼任	教授	海野 雅司 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論
兼任	教授	小林 元太 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		生命機能科学特論※
兼任	教授	後藤 聡 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	教授	村松 和弘 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学融合特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	教授	一色 司郎 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※
兼任	教授	近藤 文義 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※ 農学総合概論※
兼任	教授	鈴木 智恵子 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		看護理論※
兼任	教授	鈴木 章弘 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		生物科学特論※
兼任	教授	穴井 豊昭 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		生物科学特論※
兼任	教授	後藤 正利 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		生命機能科学特論※

専任・兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	藤野 成美 () ＜平成31年４月＞ 博士（保健学）
		看護理論※
兼任	教授	田中 宗浩 () ＜平成31年４月＞ 博士（農学）
		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※
兼任	教授	相島 慎一 () ＜平成31年４月＞ 博士（医学）
		医学・看護学概論※
兼任	教授	宗 伸明 () ＜平成31年４月＞ 博士（工学）
		生命機能科学特論※
兼任	准教授	村田 祐造 () ＜平成31年４月＞ 博士（医学）
		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※
兼任	准教授	尾崎 岩太 () ＜平成31年４月＞ 博士（医学）
		医学・看護学概論※
兼任	准教授	上田 敏久 () ＜平成31年４月＞ 理学博士
		生命機能科学特論※
兼任	准教授	村久保 雅孝 () ＜平成31年４月＞ 修士（教育学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	富永 広貴 () ＜平成31年４月＞ 博士（理学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	永野 幸生 () ＜平成31年４月＞ 博士（農学）
		生命機能科学特論※
兼任	准教授	辻 一成 () ＜平成31年４月＞ 博士（農学）
		国際・地域マネジメント特論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	藤野 成美 () ＜平成31年 4月＞ 博士（保健学） 看護理論※
		田中 宗浩 () ＜平成31年 4月＞ 博士（農学） データサイエンス特論 創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※
兼任	教授	相島 慎一 () ＜平成31年 4月＞ 博士（医学） 医学・看護学概論※
		宗 伸明 () ＜平成31年 4月＞ 博士（工学） 生命機能科学特論※ 農学総合概論※
兼任	教授	有馬 進 () ＜平成31年 4月＞ 農学博士 農学総合概論※
		山下 宗利 () ＜平成31年 4月＞ 理学博士 データサイエンス特論
兼任	教授	張 韓模 () ＜平成31年 4月＞ 博士（経済学） 多文化共生理解
		吉住 磨子 () ＜平成31年 4月＞ Doctor of philosophy in art History（イギリス） 多文化共生理解
兼任	教授	山崎 功 () ＜平成31年 4月＞ 修士（法学） 多文化共生理解
		安田 浩樹 () ＜平成31年 4月＞ 博士（医学） 人体構造機能学概論
兼任	教授	北垣 浩志 () ＜平成31年 4月＞ 博士（農学） データサイエンス特論
		永尾 晃治 () ＜平成31年 4月＞ 博士（農学） 農学総合概論※
兼任	教授	西郡 大 () ＜平成31年 4月＞ 博士（教育情報学） データサイエンス特論
		川口 淳 () ＜平成31年 4月＞ 博士（数理学） データサイエンス特論
兼任	准教授	尾崎 岩太 () ＜平成31年 4月＞ 博士（医学） 医学・看護学概論※
		上田 敏久 () ＜平成31年 4月＞ 理学博士 生命機能科学特論※
兼任	准教授	村久保 雅孝 () ＜平成31年 4月＞ 修士（教育学） 創成科学PBL特論
		富永 広貴 () ＜平成31年 4月＞ 博士（理学） データサイエンス特論 創成科学PBL特論
兼任	准教授	永野 幸生 () ＜平成31年 4月＞ 博士（農学） 生命機能科学特論※
		辻 一成 () ＜平成31年 4月＞ 博士（農学） 国際・地域マネジメント特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	藤村 美穂 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（社会学）
		国際・地域マネジメント特論※
兼任	准教授	泉 清高 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	杉 剛直 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	准教授	川添 嘉徳 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		生命機能科学特論※
兼任	准教授	木本 晃 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	准教授	山岡 禎久 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）・博士（医学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	中尾 友香梨 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（比較社会文化）
		多文化共生理解
兼任	准教授	古藤田 信博 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	羽石 寛志 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		キャリアデザイン特論
兼任	准教授	原 めぐみ () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	原口 智和 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	藤田 亜美 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（理学）
		人体構造機能学概論※
兼任	准教授	郡山 益実 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	光武 進 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		創成科学PBL特論 生命機能科学特論※
兼任	准教授	橋本 時忠 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	熊谷 有記 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（保健学）
		創成科学融合特論
兼任	准教授	弓削 こずえ () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	宮本 英揮 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	上野 大介 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	阿南 光政 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	中井 信介 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（学術）
		国際・地域マネジメント特論※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	藤村 美穂 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（社会学）
		国際・地域マネジメント特論※
兼任	准教授	泉 清高 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	杉 剛直 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論 電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	准教授	川添 嘉徳 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		生命機能科学特論※
兼任	准教授	木本 晃 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		電気電子工学概論※ 電気電子工学特論※
兼任	准教授	山岡 禎久 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）・博士（医学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	中尾 友香梨 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（比較社会文化）
		多文化共生理解
兼任	准教授	古藤田 信博 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		創成科学PBL特論
兼任	教授	羽石 寛志 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		キャリアデザイン特論
兼任	准教授	原 めぐみ () ＜平成31年 4 月＞ 博士（医学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	原口 智和 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	郡山 益実 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※ 農学総合概論※
兼任	准教授	光武 進 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		創成科学PBL特論 生命機能科学特論※
兼任	准教授	橋本 時忠 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（工学）
		創成科学PBL特論
兼任	准教授	熊谷 有記 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（保健学）
		創成科学融合特論
兼任	准教授	弓削 こずえ () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	宮本 英揮 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	上野 大介 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	阿南 光政 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		食資源環境科学特論※
兼任	准教授	中井 信介 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（学術）
		国際・地域マネジメント特論※
兼任	准教授	稲葉 繁樹 () ＜平成31年 4 月＞ 博士（農学）
		データサイエンス特論

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】 【専任】 ・遠藤隆教授 辞職。 ・中川泰宏教授 辞職。兼任講師に就任。 ・末次大輔准教授 辞職。 ・大島孝仁准教授 辞職。 【兼任】 ・能城浩和兼任教授辞任により、真鍋達也兼任准教授に変更。 ・村田祐造兼任准教授 辞職。 ・藤田亜美兼任准教授辞職により、安田浩樹兼任教授に変更。 ・山下宗利兼任教授、張韓模兼任教授、吉住磨子兼任教授、山崎功兼任教授、北垣志兼任教授、西郡大兼任教授、川口淳兼任教授 科目の充実のため担当教員を追加。 ・稲葉繁樹兼任准教授、重竹芳江兼任准教授、山田直子兼任准教授、後藤正英兼任准教授、竹村敏彦兼任准教授、谷口高志兼任准教授 科目充実のため担当教員を追加。 ・有馬進兼任教授、永尾晃治兼任教授、草場基章兼任准教授、藤田大輔兼任准教授、木村圭兼任講師 学内調整による担当教員見直しにより追加。 ・羽石兼任教授 令和元年5月1日付で准教授から教授に昇任。
--

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
24	16	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
53	56	6	0	115	53	55	6	0	114
(53)	(55)	(6)	(0)	(114)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
114	0	1			112	0	2		
(112)	(0)	(2)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
53	55	6	0	114	51	54	6	0	111
[0]	[△1]	[0]	[0]	[△1]	[△2]	[△2]	[0]	[0]	[△4]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
112	0	2			111	0	0		
[△2]	[0]	[1]			[△3]	[0]	[△1]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

現在(報告時)の完成年度時の状況(C) _____ = $\frac{114}{115}$ =

99.13

 %

設置時の計画(A)

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}}$ = $\frac{0}{114}$ =

0

 %

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由
(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	遠藤 隆	H30.7	必修	物理学特別研究Ⅰ	①	H30.7.9死亡のため就任辞退（元）						
				必修	物理学特別研究Ⅱ	①							
				必修	物理学特別研究Ⅲ	①							
				必修	物理学特別研究Ⅳ	①							
				選択	量子光学	①							
2	教授	中川 泰宏	H31.3	必修	創成科学融合特論	①	H31.3.31付け転出のため就任辞退（元）						
				必修	創成科学PBL特論	①							
				必修	幾何学特論Ⅰ	②							
				必修	数学特別研究Ⅰ	①							
				必修	数学特別研究Ⅱ	①							
				必修	数学特別研究Ⅲ	①							
				必修	数学特別研究Ⅳ	①							
				選択	数学概論	①							
3	准教授	末次 大輔	H31.2	必修	都市基礎工学特別研究Ⅰ	①	H31.2.28付け転出のため就任辞退（元）						
				必修	都市基礎工学特別研究Ⅱ	①							
				必修	都市基礎工学特別研究Ⅲ	①							
				必修	都市基礎工学特別研究Ⅳ	①							
				必修	建築環境デザイン特別研究Ⅰ	①							
				必修	建築環境デザイン特別研究Ⅱ	①							
				必修	建築環境デザイン特別研究Ⅲ	①							
				必修	建築環境デザイン特別研究Ⅳ	①							
				選択	地盤工学特論【隔年】	①							
				選択	低平地防災地盤工学特論【隔年】	①							
4	准教授	大島 孝仁	H31.3	必修	創成科学融合特論	①	H31.3.31付け転出のため就任辞退（元）						
				必修	電気電子工学特別研究Ⅰ	①							
				必修	電気電子工学特別研究Ⅱ	①							
				必修	電気電子工学特別研究Ⅲ	①							
				必修	電気電子工学特別研究Ⅳ	①							
				選択	物質情報エレクトロニクス特論	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
4	人	必修	24	科目	必修	23	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	5	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	29	科目	計	28	科目	計	1	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」

・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」

・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（ F ）						後任補充状況の集計（ G ）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（ a ）＋（ b ）＋（ c ）			①の合計数（ a ）		②の合計数（ b ）		③の合計数（ c ）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」

・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」

・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
4	人	必修	24 科目	必修	23 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
		選択	5 科目	選択	5 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	29 科目	計	28 科目	計	1 科目	計	0 科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③\text{合計(D)+(F)}}{(2)－②\text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{115} = \boxed{3.47} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由					
		該当なし											
合 計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

他の専任教員及び兼任で対応するため影響はない。
時間割及びシラバスにより周知する。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の の実施計画
届 出 時 (平成30年)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を 全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<理工学研究科 理工学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・佐賀大学理工学研究科に各種委員会を設けている。（別添資料1及び2参照） b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・教務委員会（H31年度第1回4月1日開催：参加者11人、第2～12回開催予定） ・質保証委員会（FD委員会）（H31年度1回開催予定） c 委員会の審議事項等 ・教務委員会 （審議事項等）理工学研究科の教務、教育実習、カリキュラムの改善、その他教務に関すること。 ・質保証委員会（FD委員会） （業務）FD活動(大学の理念・目標及び教育内容・方法についての組織的な研究・研修をいう。)の円滑な実施を図る。 ② 実施状況 a 実施内容 ・質保証委員会（FD委員会） 定期的なFD講演会、研修会等を実施予定。 b 実施方法 セミナー方式 c 開催状況（教員の参加状況含む） ・H31.4.1 第1回理工学研究科教務委員会開催 新入生リエンション実施要領の審議ほか/教務委員11人参加 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ・ティーチング・ポートフォリオを利用した教育改善活動の推進 ・アクティブラーニングに基づく授業の推進 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 実施（各学期終了後に実施） b 教員や学生への公開状況、方法等 ホームページ上で公開
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的については、当初設定したとおりに実現している。今後、更に設置の趣旨・目的に沿った教育・研究の水準の向上を図ることとしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和2年3月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年3月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

平成27年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価を受審し、大学評価基準を満たしている旨の認定を受けた（平成28年3月24日付）。

次回は、令和3年に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和 2 年 3 月 3 1 日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。